

古今
百
卷
全
集

月
日
年
月
日
年
月
日
年





香齋集



合類寶鑑

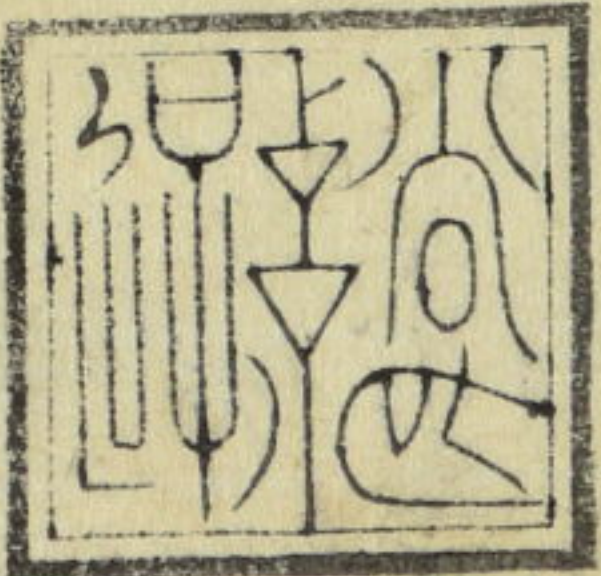
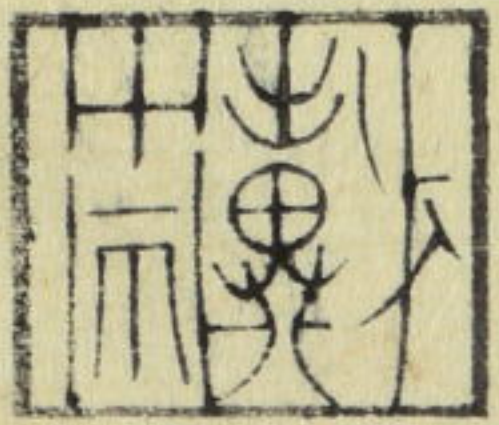
唐繪巻中傳目録

- 一 戴笠
- 二 戴笠
- 三 色鳥
- 四 敬登
- 五 傲翁
- 六 李公麟
- 七 徐熙
- 八 趙昂
- 九 陳常
- 十 楊補之
- 十一 陳容
- 十二 僧法常
- 十三 玉洞
- 十四 李安忠
- 十五 多色
- 十六 夏柱
- 十七 繡指
- 十八 夏柱
- 十九 毛益
- 二十 李安忠
- 廿一 張翥
- 廿二 李安忠
- 廿三 張翥
- 廿四 張翥
- 廿五 李安忠

右廿八件ハ月夜屋傳小紙奉る



ひり牛ふおつくく野世つ
く韓漢ふさるるさ其つさ
田家川本ふさるるさ又さ
て後ゆたりも中載ゆとさ
さささく牛と書て名とゆり
戴嵩印文



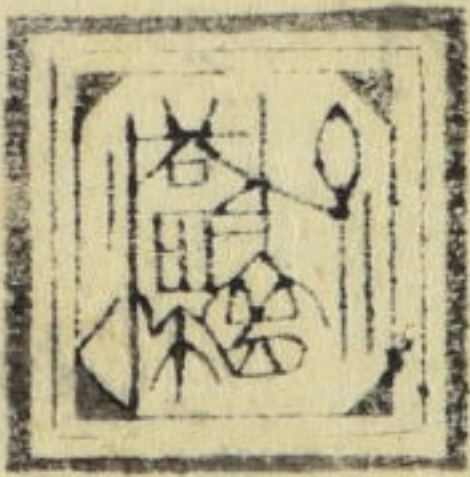
戴

戴嵩のガオ之又よく牛と書

印文

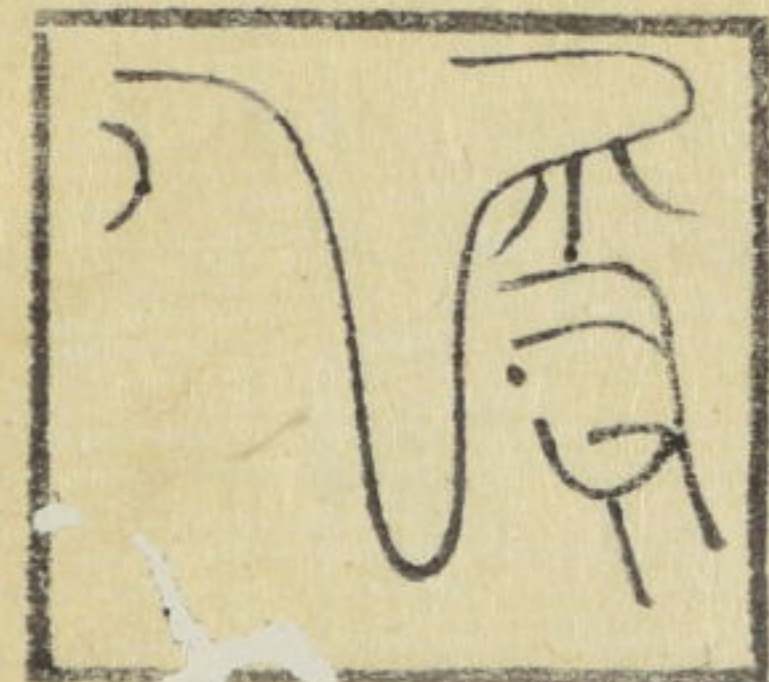
中後

乃中みねしるふ乃志なり庵史
表安乃くたり丹まといく果をさ
色道響 日中後傳花名書法序

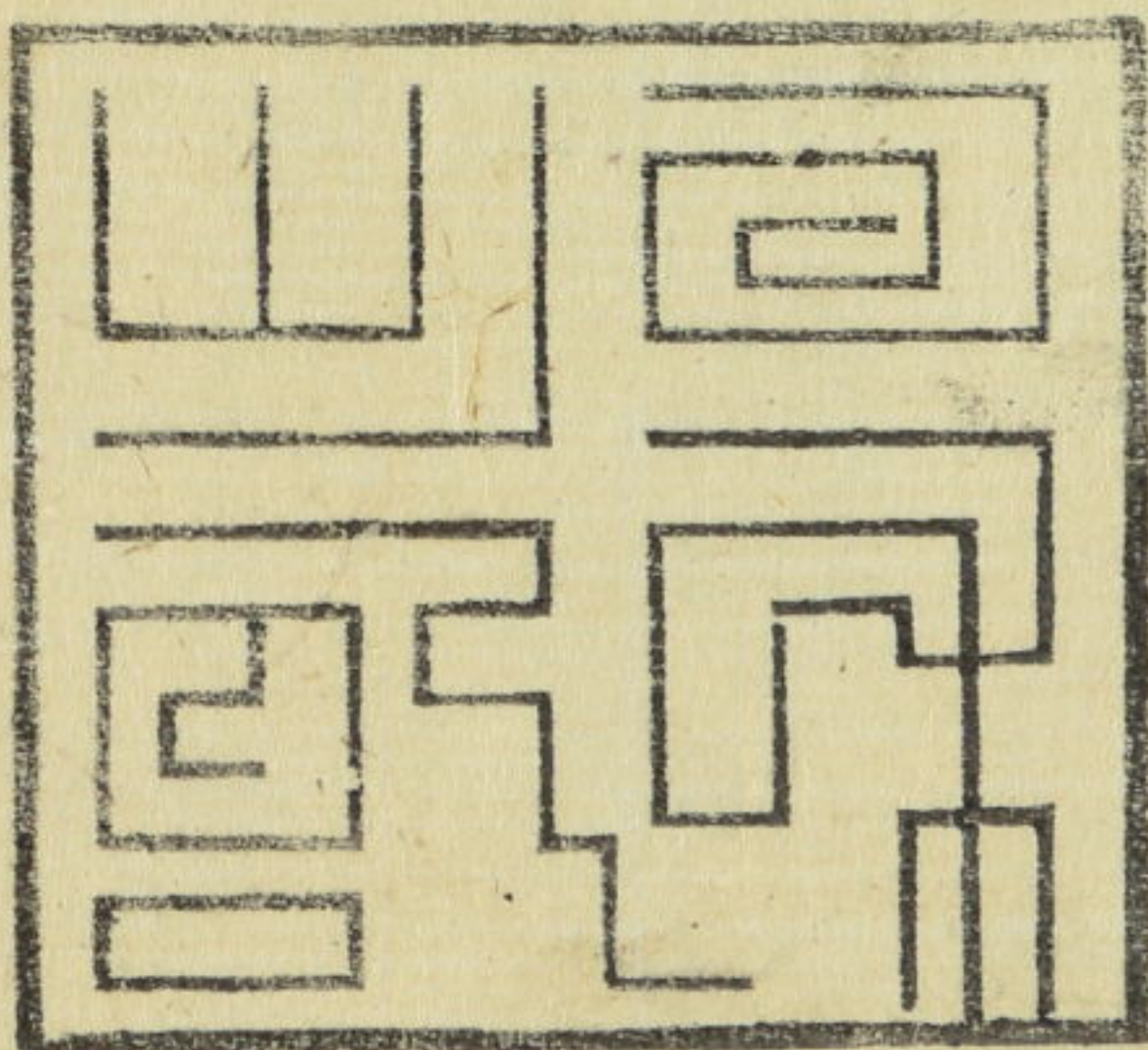
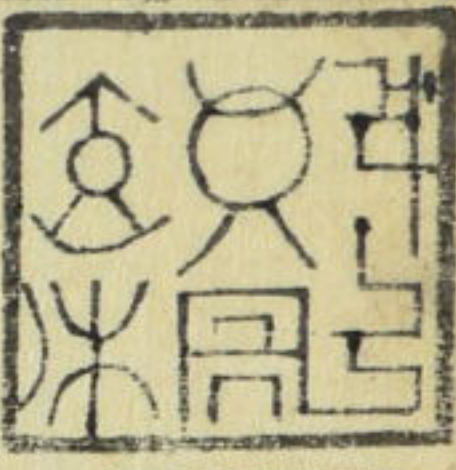
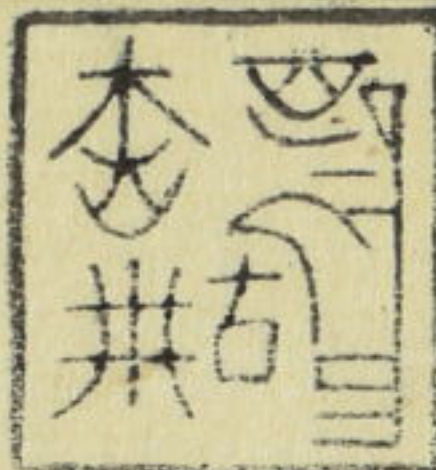
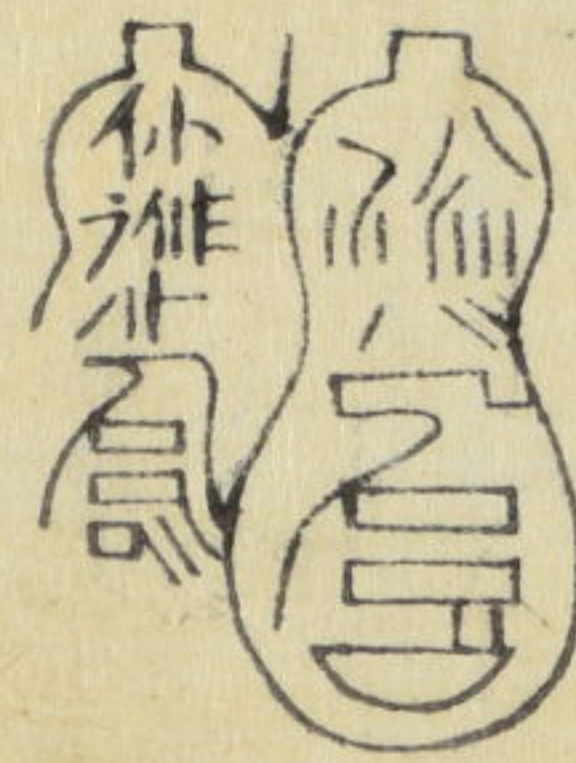
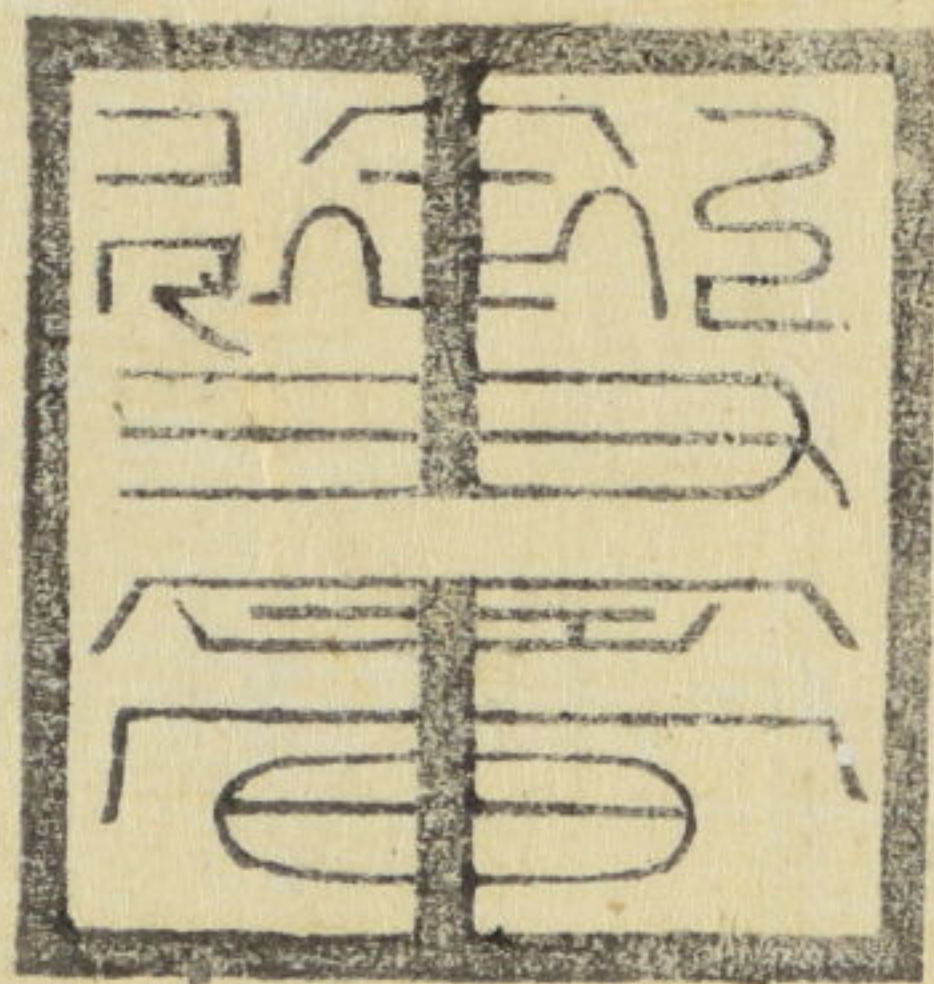


時み能すむ花名に長す秘植生
意とゆり大抵後史ふりた
と入るる乃新撰乃新たれた
ととととととととととととと
困窮ととととととととととと
すさささささささささささ
ら門まりるれ書花と梅とらふ
又とり色響う書い對さか如
黄登 詳い要叙成好乃く
中後子日中後傳花名
重深林とらふ乃ととととと
ととととととととととととと
ととととととととととととと
玉柳ふはく結花せれととと
ととととととととととととと
如東翻使ふららぬた作とと

海會印



尚

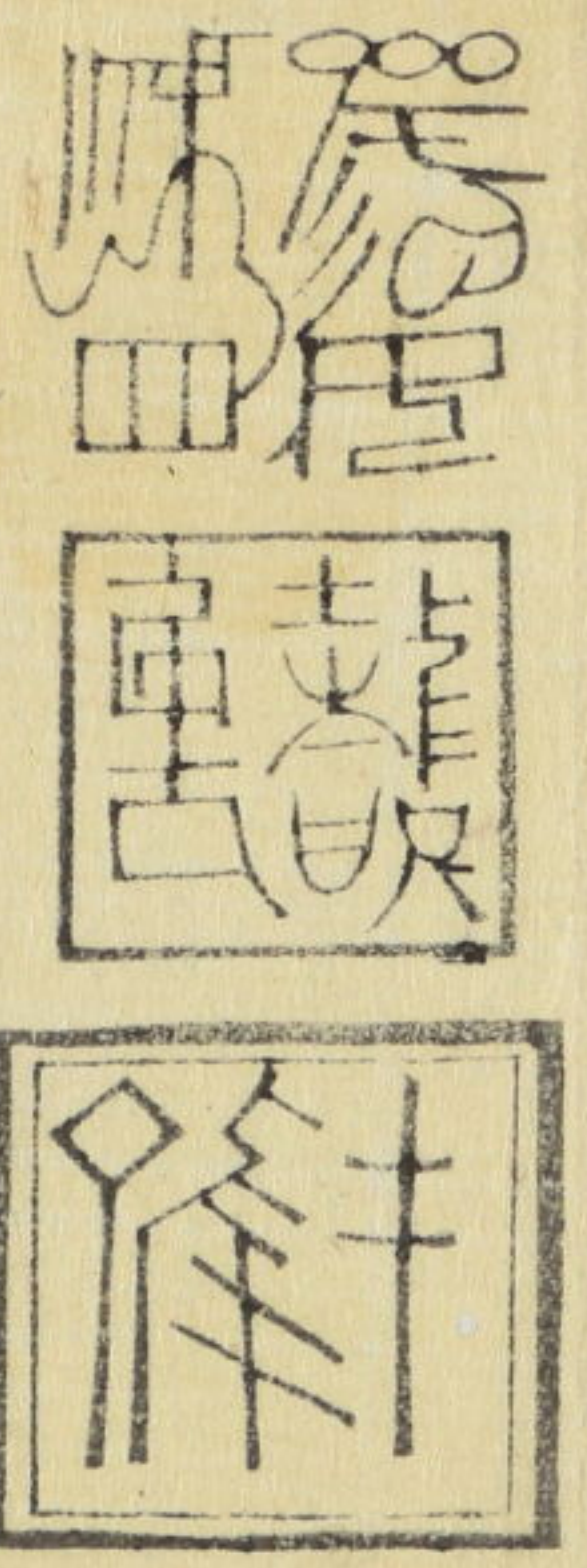
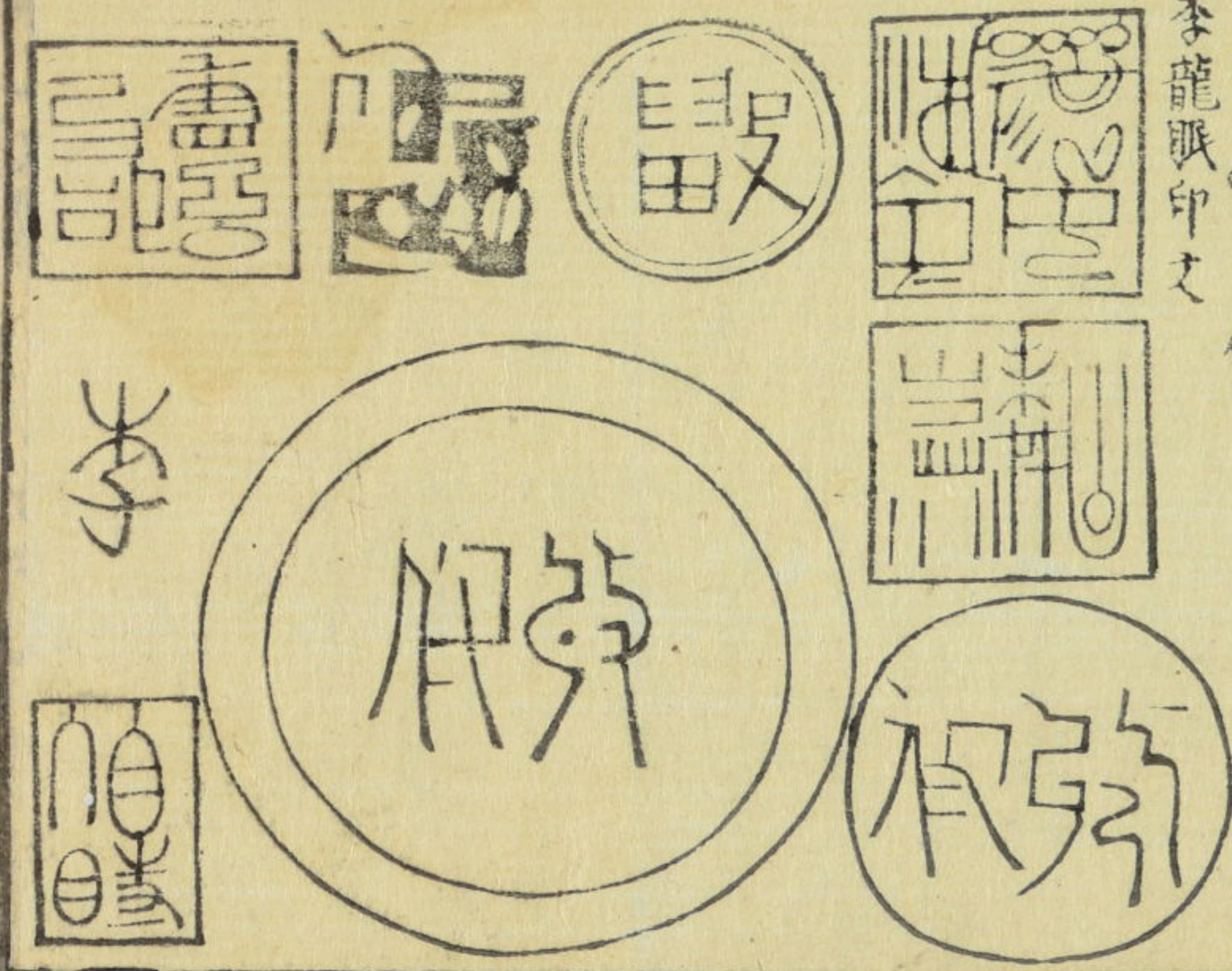


海會印

海會印

めしり清酒なるを玉座結ぶ
 くはるに糸を乃甲乃骨一
 糸古糸思賦なるを官の朝奉
 所ふりなり

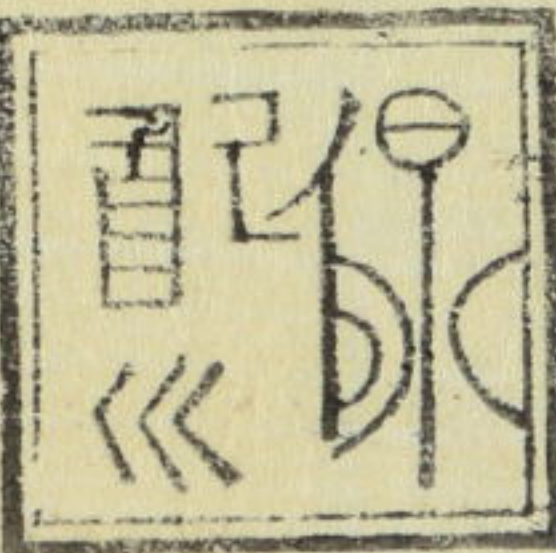
李龍眠印文



徐熙 金陵のふをりせむにあり
 龍接より龍がきのみをたに
 富真開寂寂乃とと後とす
 細木余魚標健蔬果ととと
 ぬふまはじやうとつり今乃たは
 ぐもむ性々に後暈とらひは
 めくたすす仲り照の雲とと
 もあひくをれ枝系系葉とと
 つとらる後不傳説す版不骨知
 風邪古今乃地多とすあぐく本
 とやぐ龍の雲乃紙とふあり
 又ととに癒れ後指無かり

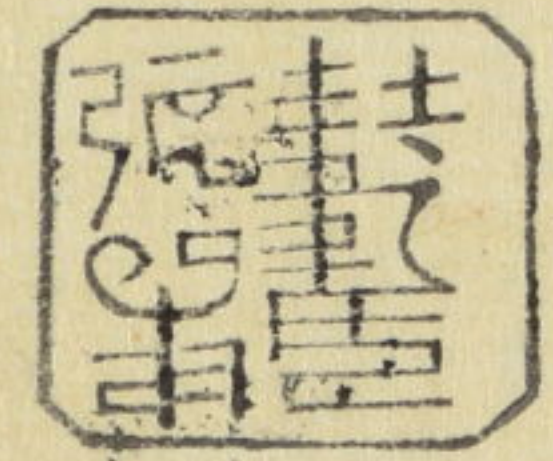
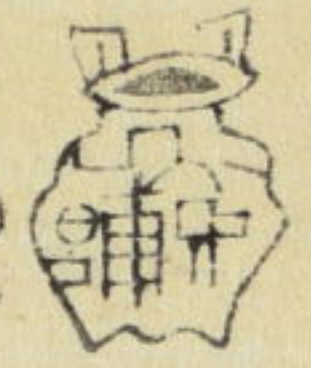
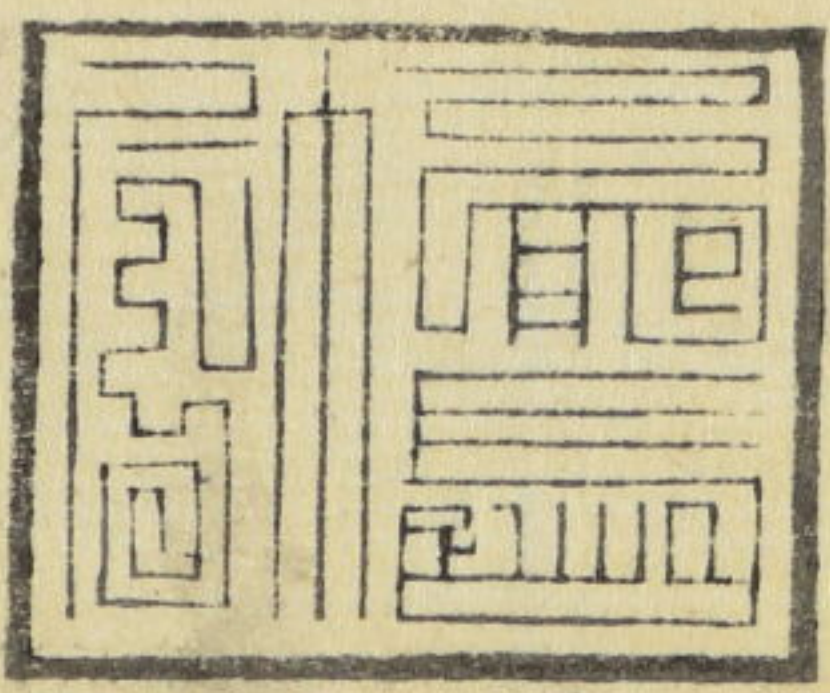
元氣を以てありし徐熙が猶ほ石の
 ころころは尾毛をかり松と後とるを
 のころと黄葉を以てるの林ありて
 冬すす猶ほが登りぬありて林
 をしす二のありれとある一は
 てこれと解すといへる徐熙は
 の孫宗師といふも又とあるこれ
 とも傳つるをいふとあり

徐熙印文



趙昌
 鮮い色にして廣くあり
 しくは眼を以てて一は
 しくは眼を以てて一は
 しくは眼を以てて一は

趙昌印文
 趙昌印文
 趙昌印文



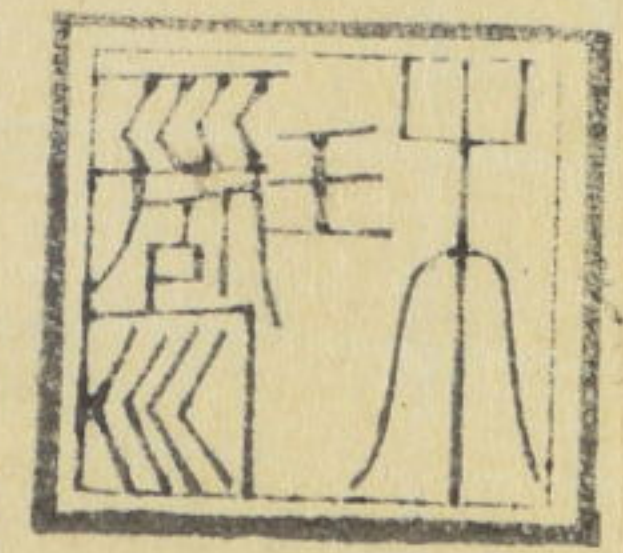
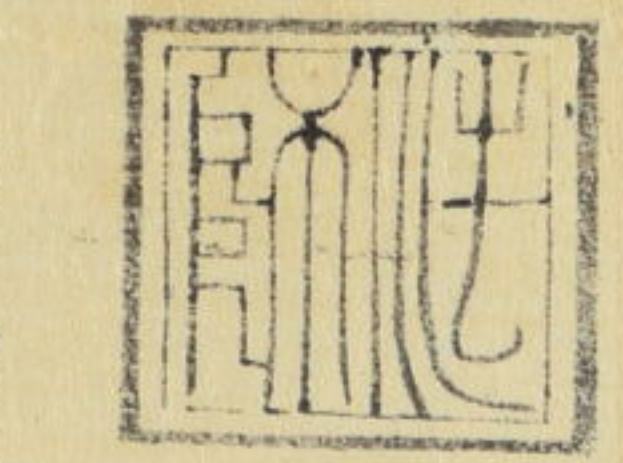
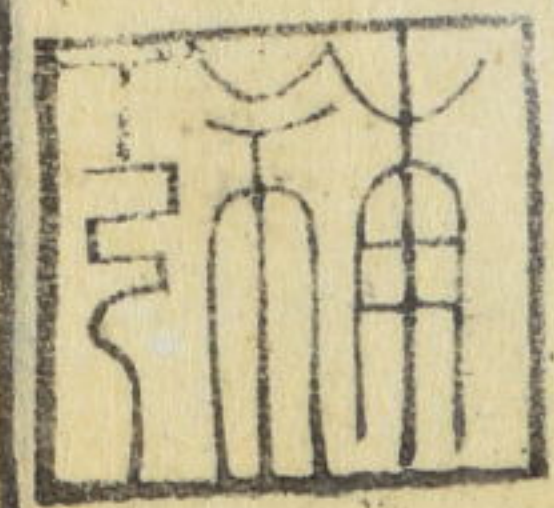
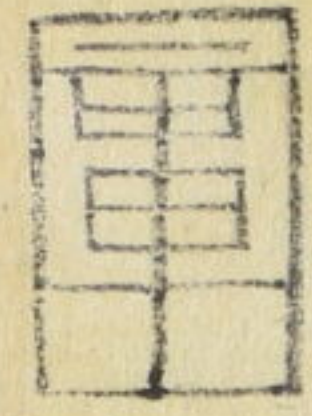
東常
 東常
 東常

死に逃れず一抔もたは
あすまをいひてさりふたふとす
さゆれぬ作とうとんと欲す

人物の影をいひてす
揚補之 字の意答とまの遊揮

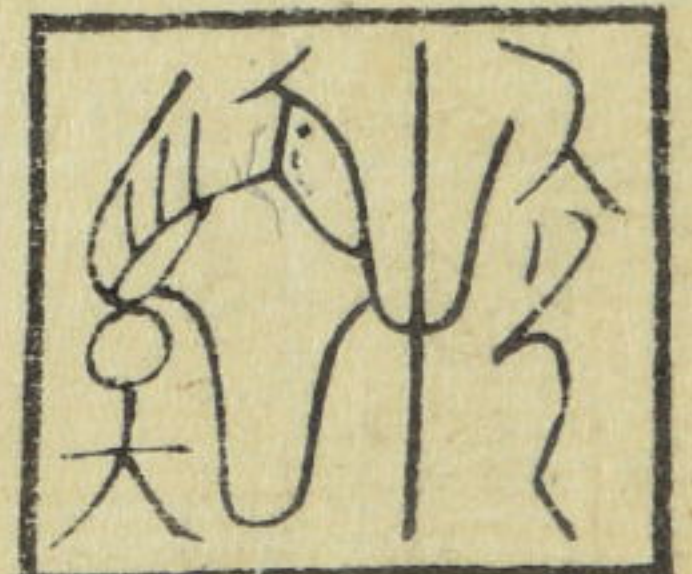
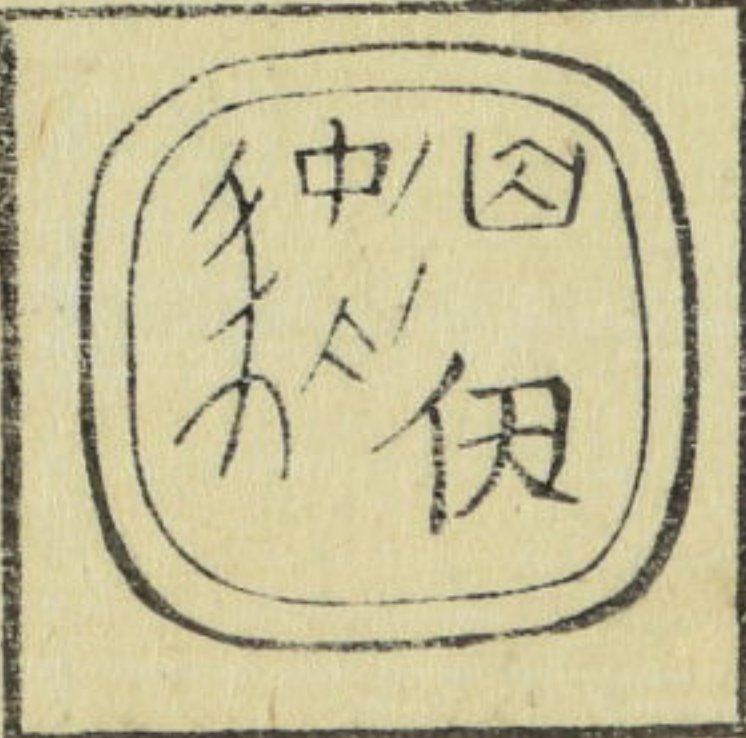
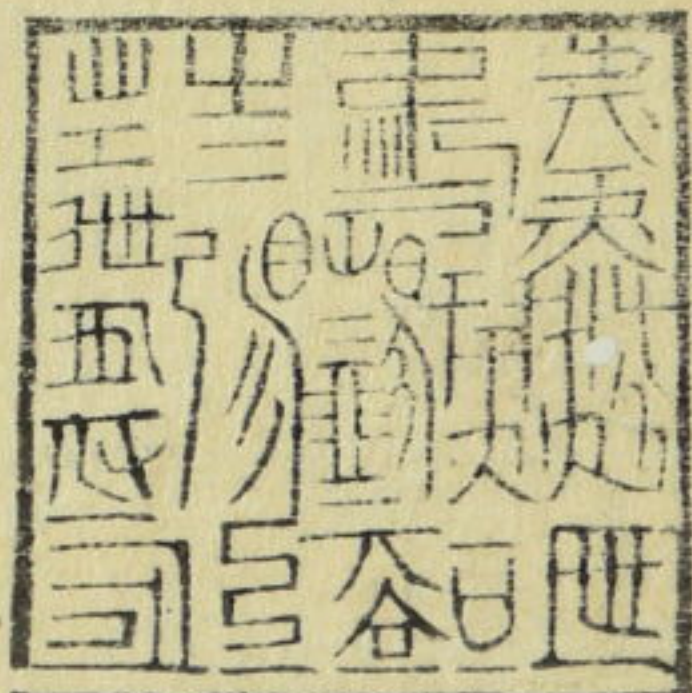
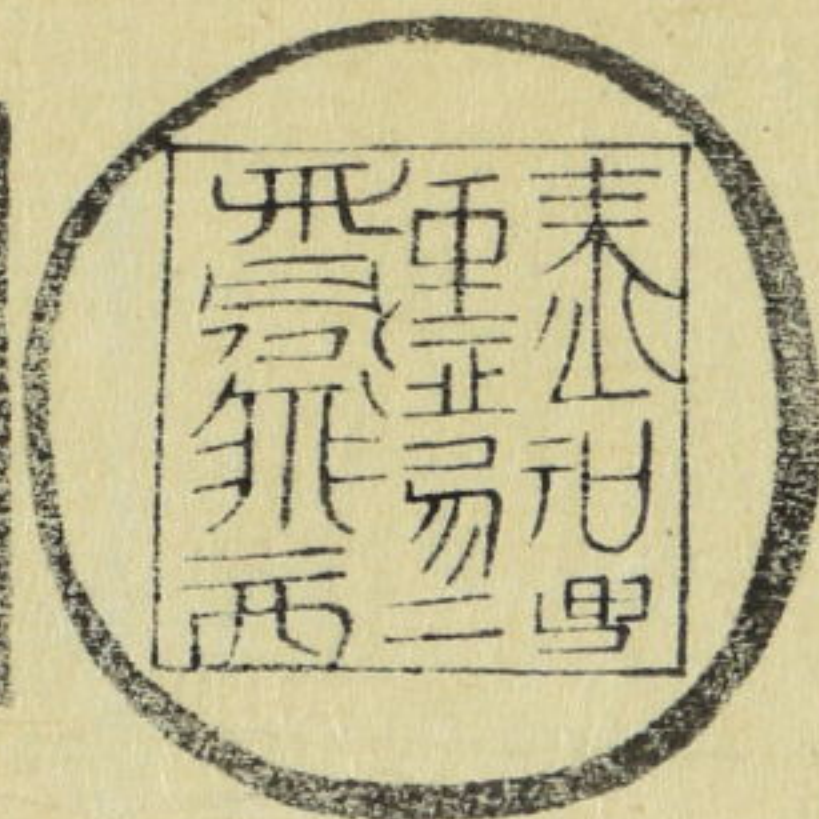
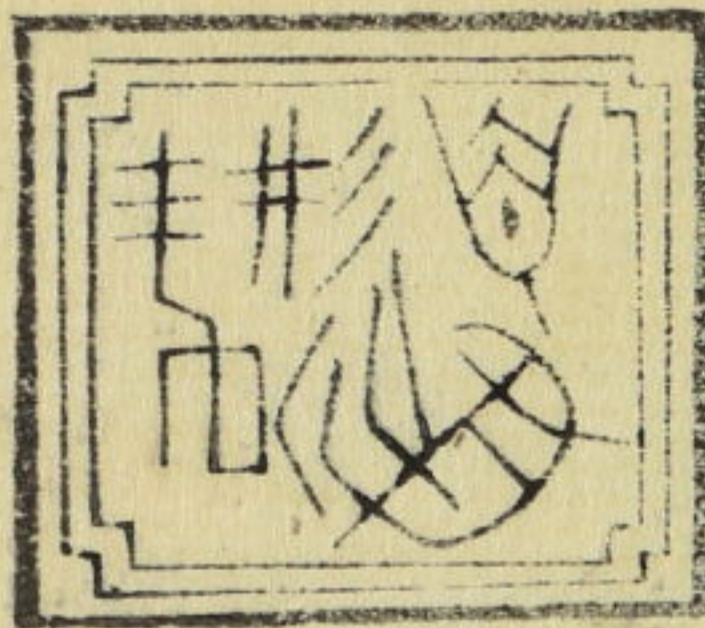
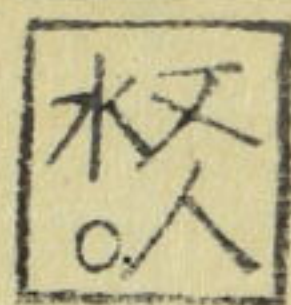
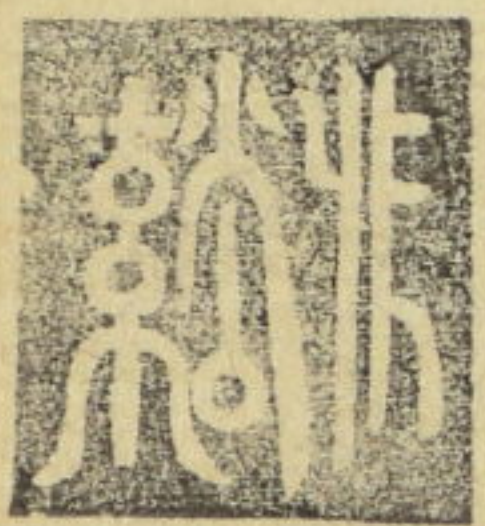
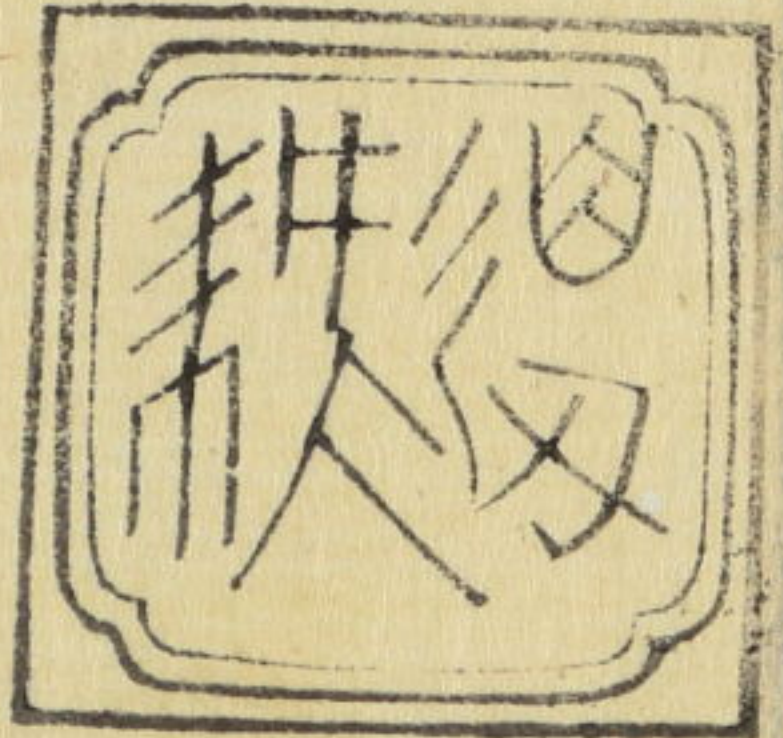
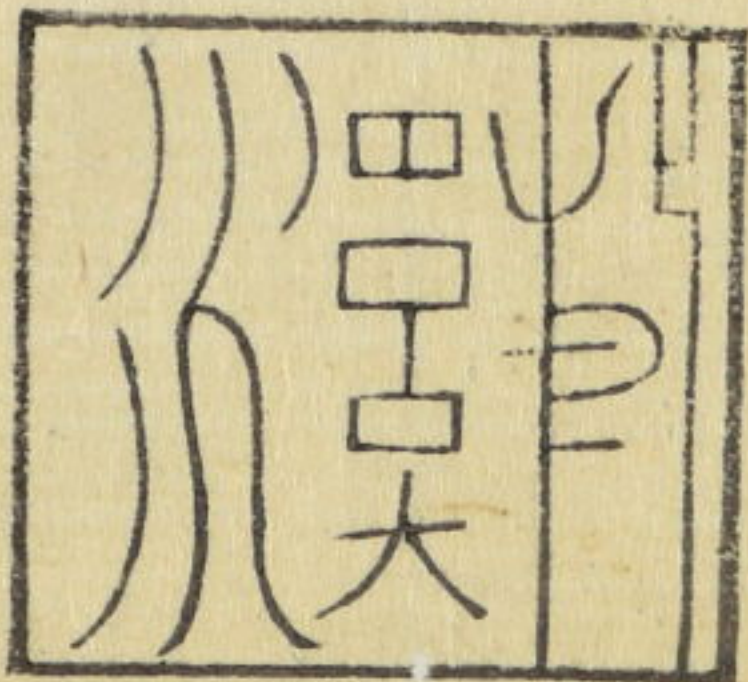
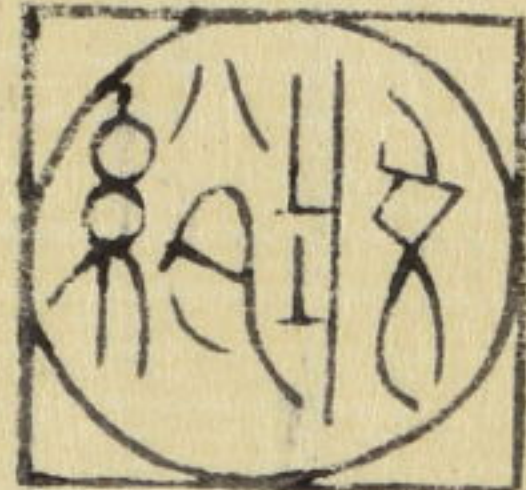
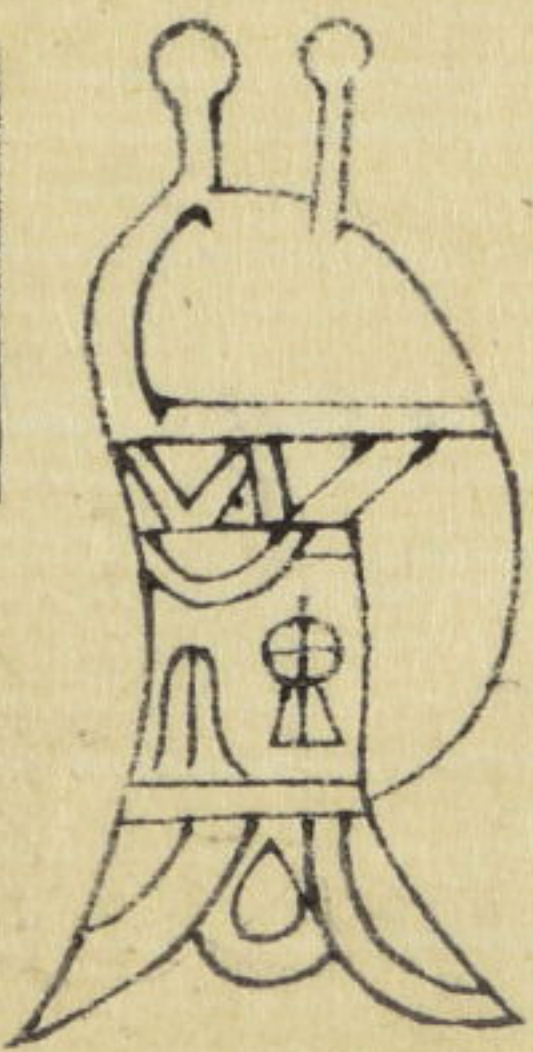
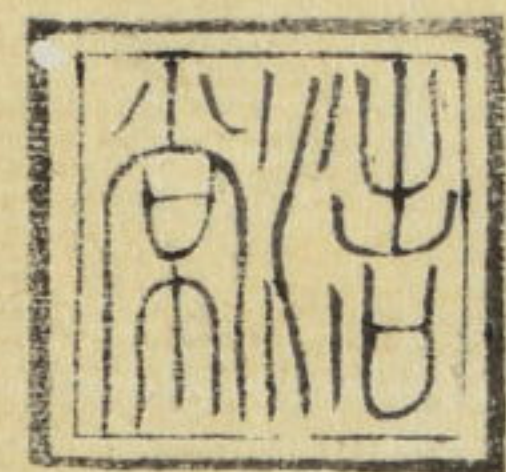
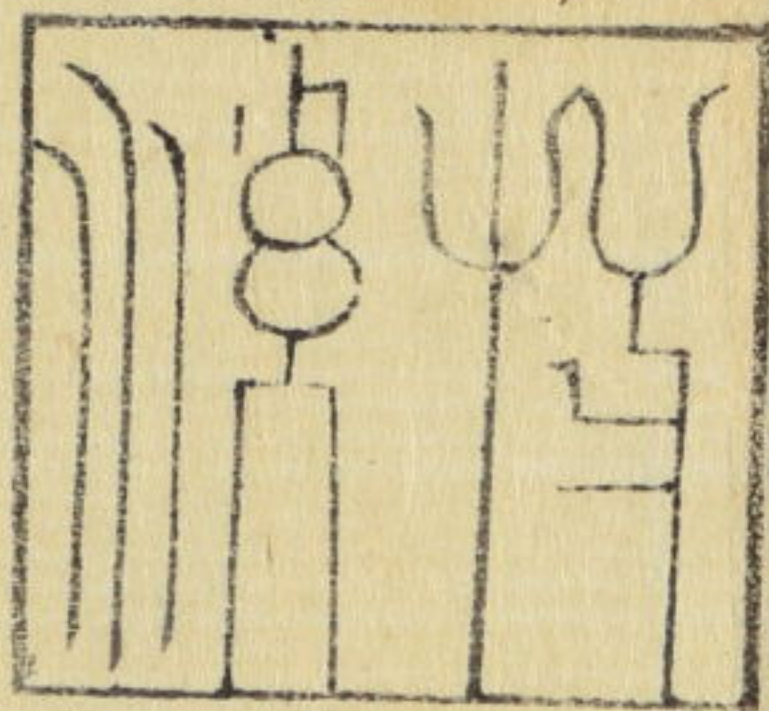
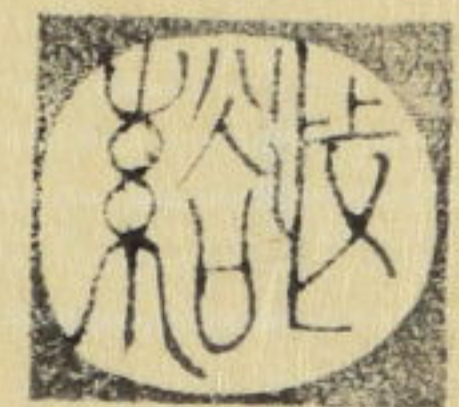
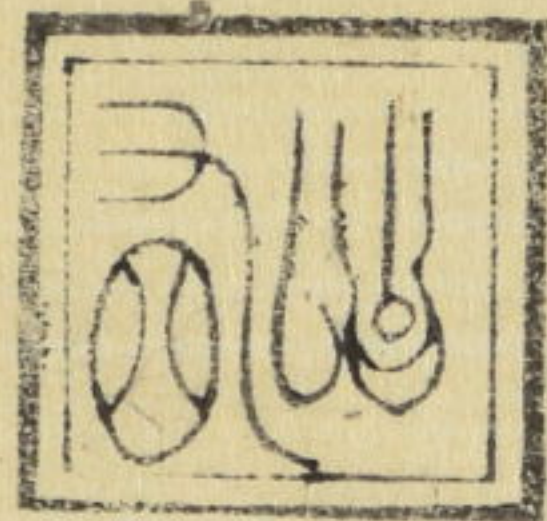
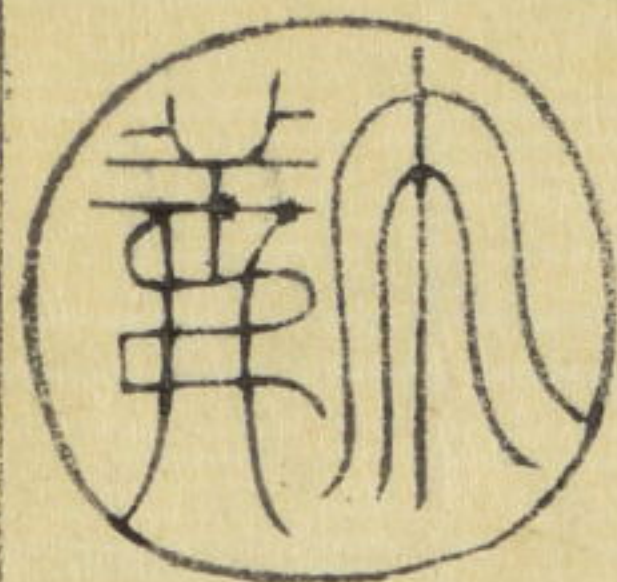
さ人もあすまの影乃人あり象の
中後とす漢乃子雲と社とせり
も書又ふとてそのふふとて反
ずもあふ乃のふ不並素後とて
あまりふねとを認す又自う漢
美去とて号すあま乃人抱
物何ともあひ梅竹松石あ仙
乃新法法法門野あま
世乃一徳とす

揚補之
印文

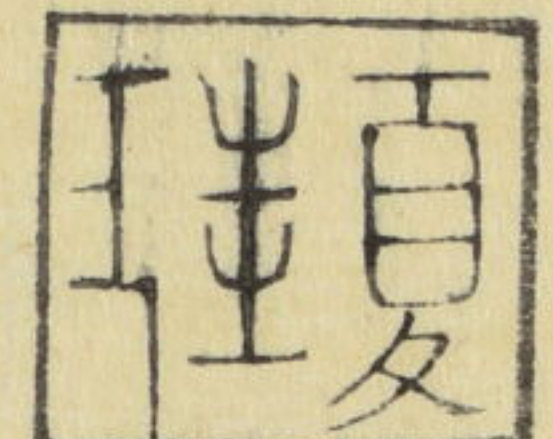
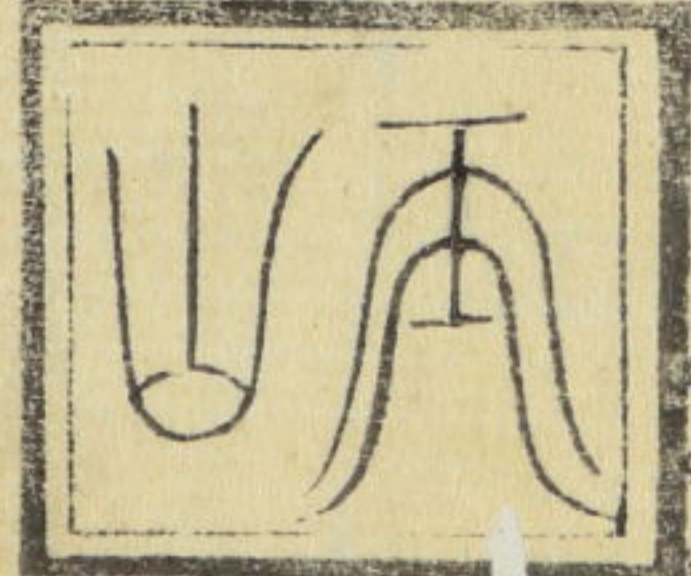
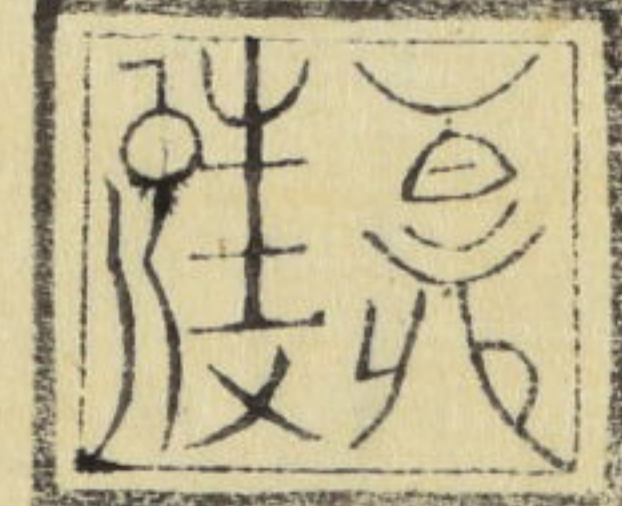
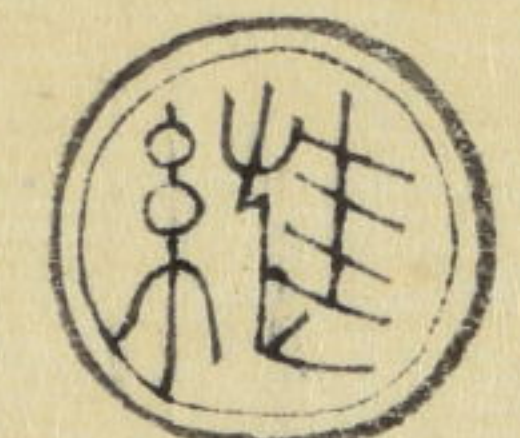
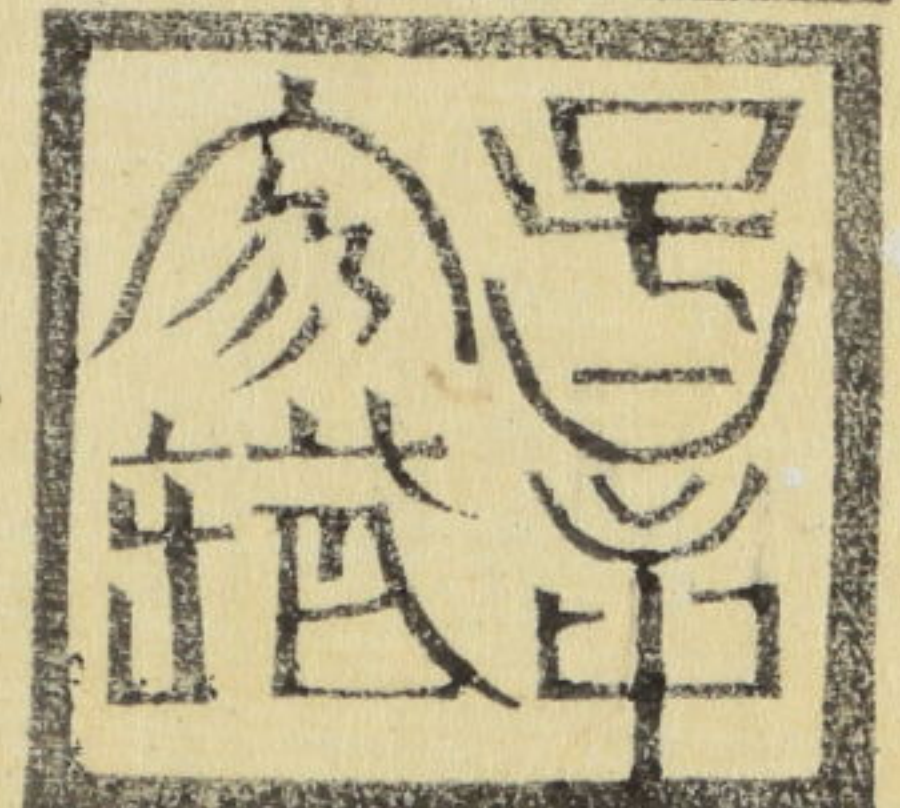
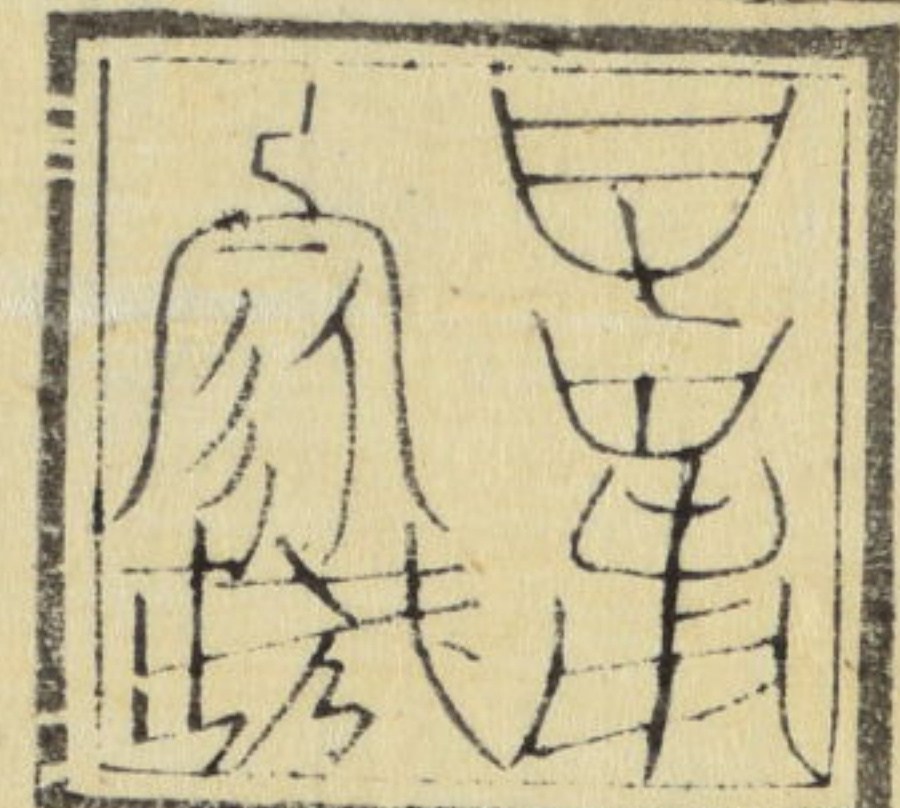
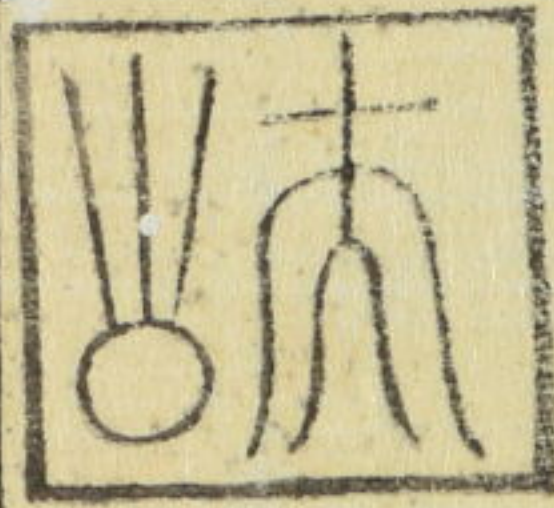
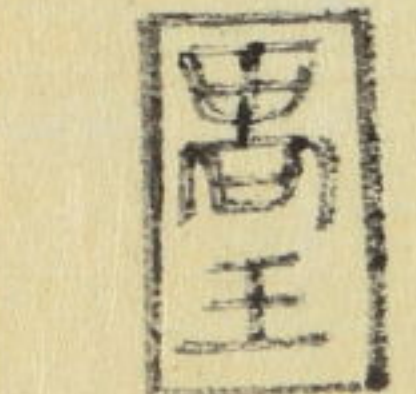
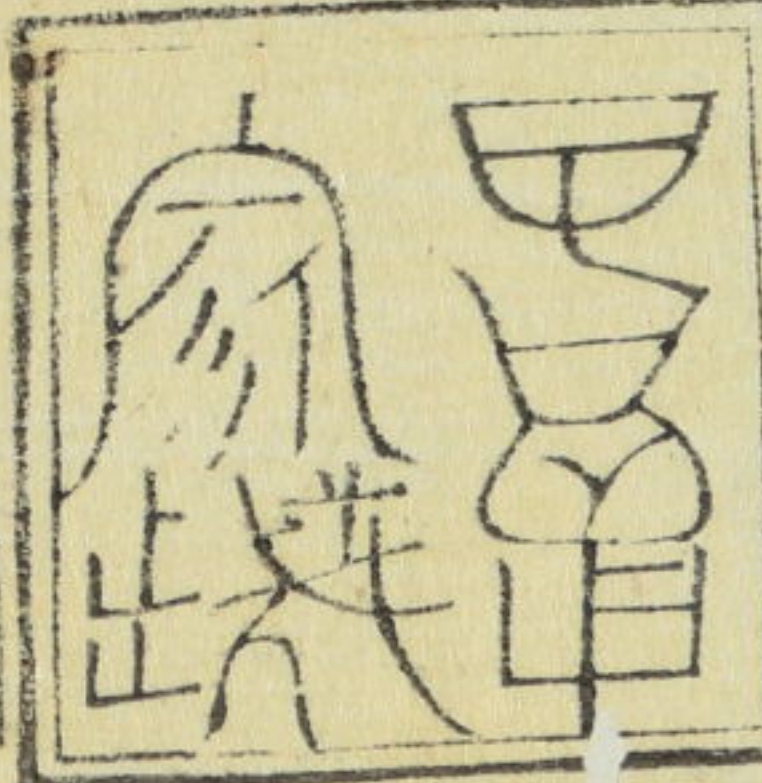
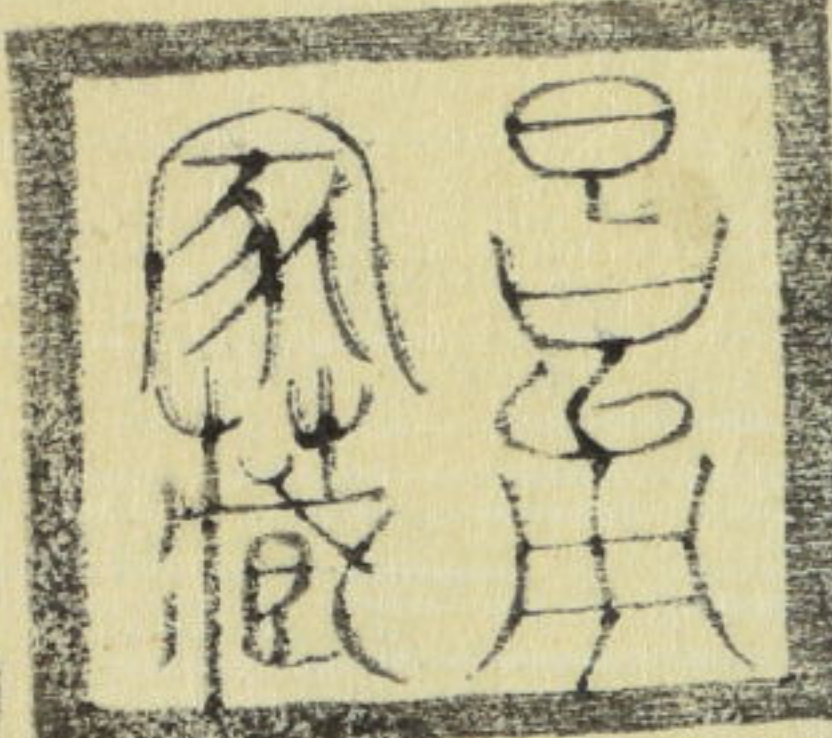
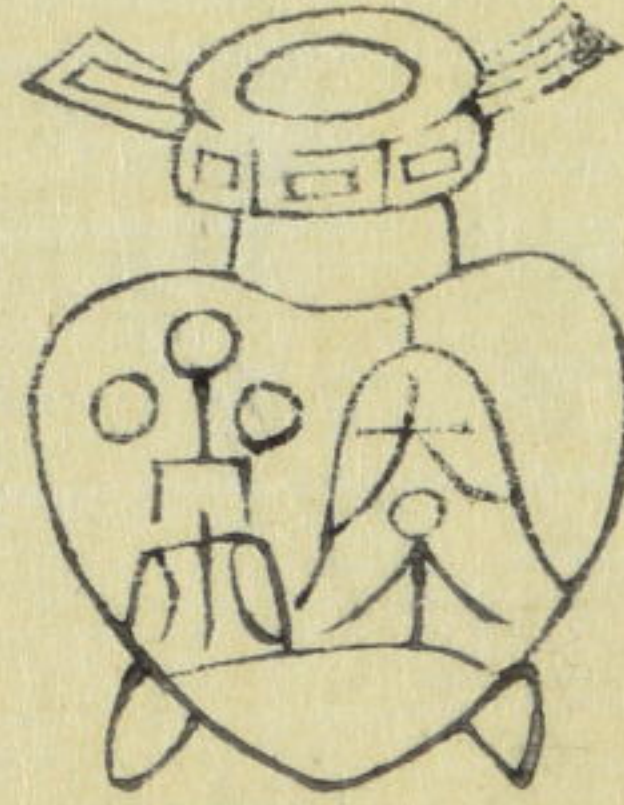
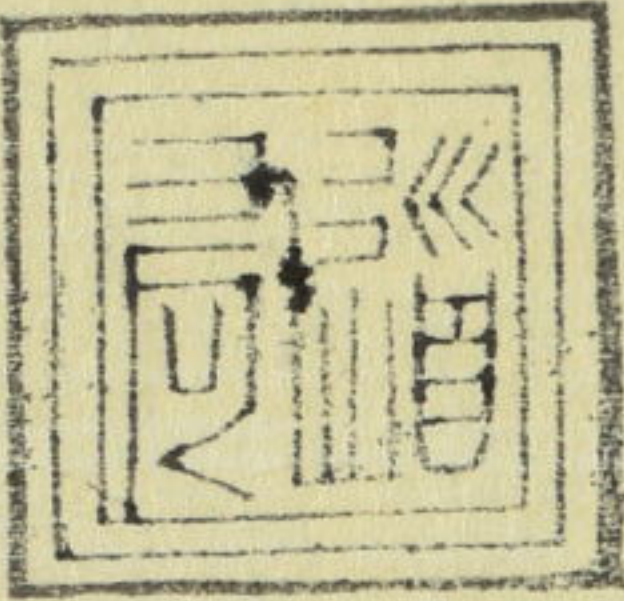


陳宮 字の意然自う肝筋と号

寸福庵乃人かり象の影乃上象
とて福平二年ふ進本より應那
文を文を信はふ倅より入て國は
監を簿とてなり空く蕭田あち
とて貢状難とて人招く矣
ふたす是何あまの解とてあひ
りこれとあれあかどう買状あ
もこれふとてあまの信ある象
社とて終とあまの愛はれあまの
とてあまのあまのあまのあ
とてあまのあまのあまのあ



此印のついでに范寛とまゝに鑑入
乃中ゆゑと云く李唐よりなるも
つゝこそおふ影のついでに一泉堂
乃よととせり 夏圭印文



毛益

漸乃毛松がふなり乾道

毛益

全

多弱
多弱
多弱

明
明

來
來

井
井

出
出

命
命

耀
耀

出
出

出
出

多
多

出
出

出
出

出
出

出
出

出
出

乃上
乃上

出
出

出
出

出
出

出
出

出
出

出
出

林泉山房

南火田

洞之迹 官の之部尚書と應いり

又乃洞器くも入隋みありて母ま
とめく多沢ゆ分乃ま本と遊
系とねく守てまあくま
ぬあくる度乃下張とすとあり

山徳
山徳
山徳

周之印 度乃総章元年有

半志常物とゆく右相みねきり
文字あり尤く勢ふ懸す兄
乃と迹と長ととゆく名とひ

とるす草と泰原乃十八ま士又
桐園乃切長生成急ひりともく
ま前右小輝映せりれなり
阿乃入まもれ母と孫す

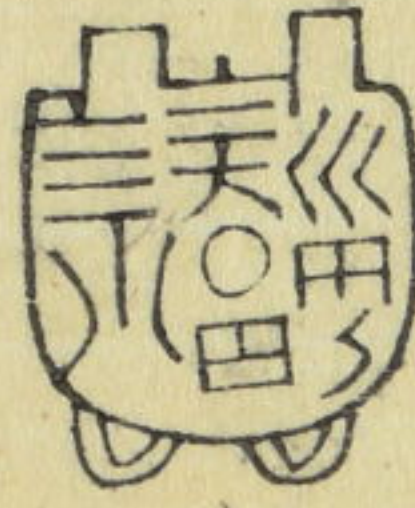
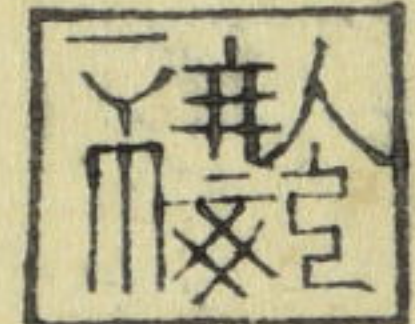
山徳

山徳

吳道玄 字ハ通子と云陽明道の

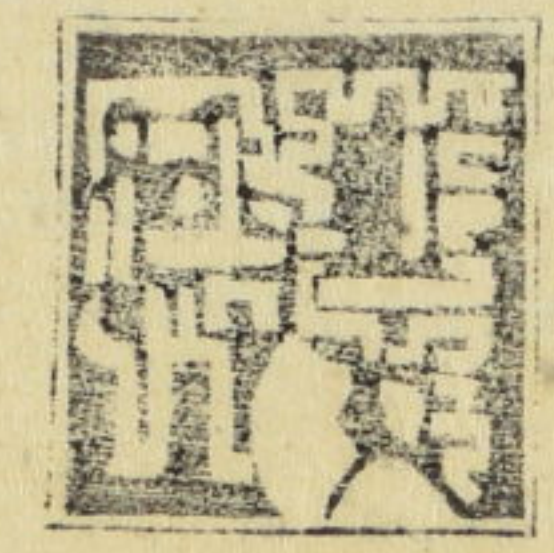
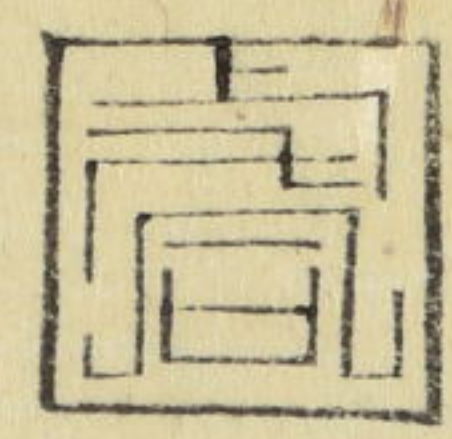
人かり回乃名ハ乃ま解て貪
海陽みあそんてまと張
かま知章みまもくあすい
後小たらまかりとやくぬまよ
小の是と性みまらるがと
者いとく波す下みあす物

いふ事なきふれす汀流るる
白洲の意あり又東波とま
小山巖竹とほらる思致とん位
かり候し季意象類ありく
返るとん年少奇とんひの

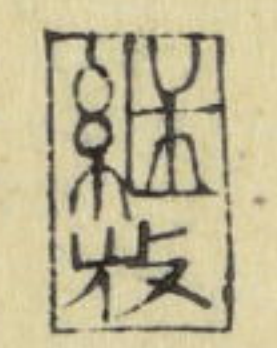


文同 野の奥可と云梓清永
乃人多り石室先生と号又自
号先生清海乃人と稱す
墨件と云く名号と阿ふる
或の戯く右張勢とほらる
長一揮の丹書意類乃妙と極
ひられとん人類意とよる
とんざらふたり又とん山とん

く富の月封員外部充秘閣
校理とよふりてる泉をけけり



建陽情惠業 二二に書居
尤小意小云とありてく
遠流とあり味濃濃乃人
乃とありかたとありあり
下品乃ととすとあり



覆載 字の子暎と云東坡
す眉山乃人なり
今小照映す又とん意とん

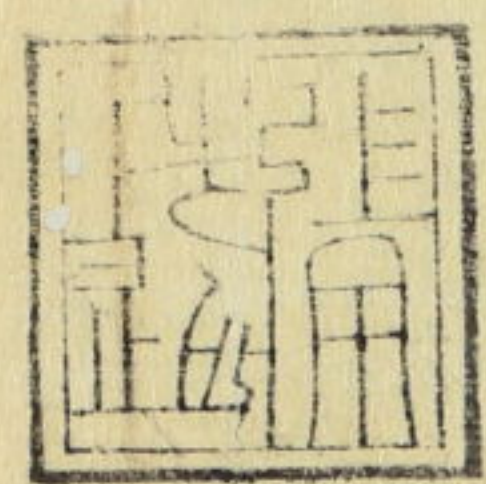
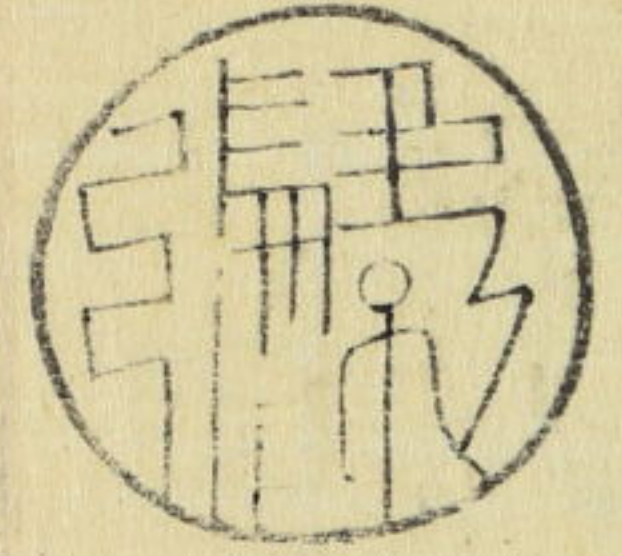
小照映す又とん意とん

蘇過 字の教書東坡先生は漢
子なりふんて性石履藤とつる
ゆくとつて義にせしは又山あり
多くまある級なり若ふれば
唐本朝の一人然るまじらるる
とよりたり集書とありこれと
はよりこれ奇なり此官の中
山傳ふる所家蓋の下のり

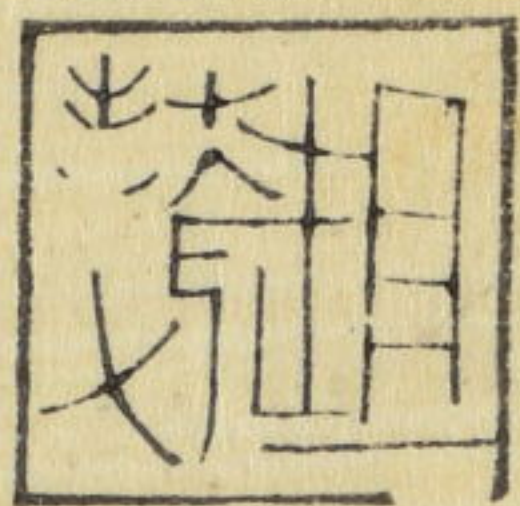
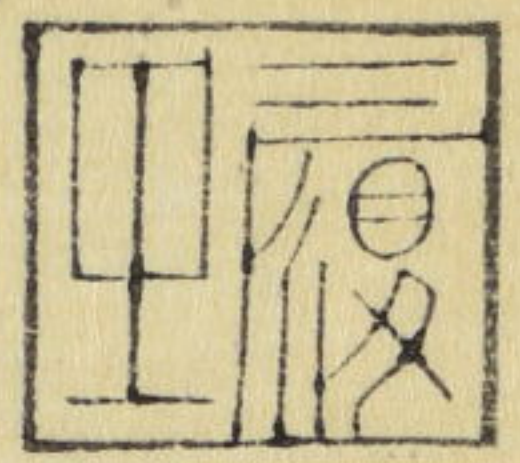


張を 字の行之大系掄次の人なり
山間水隈居すらく山ありと云く

印文



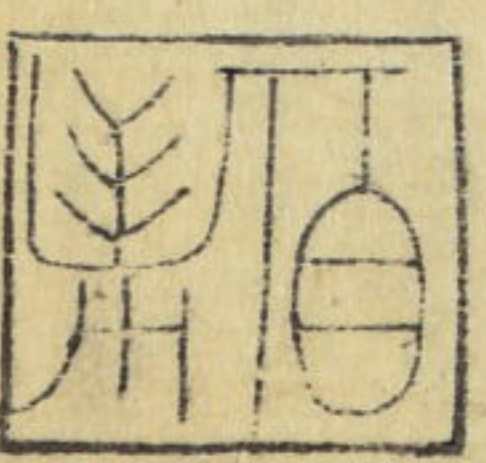
劉履中 字の坦然洋人なり能
人物と云く著書多し其なり他
人伝の行それまことなり但
し後の人物いもことと統れ



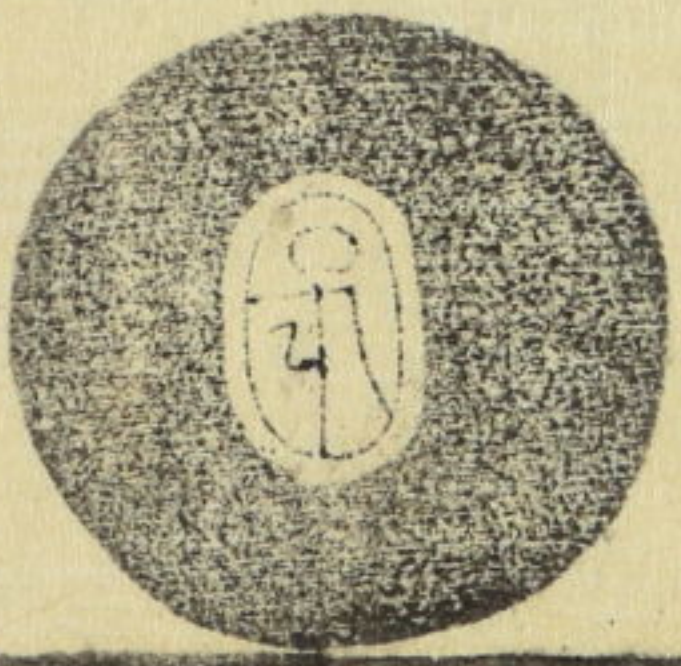
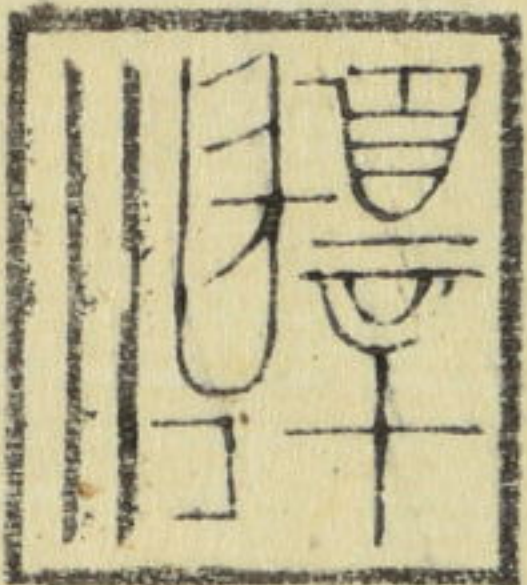
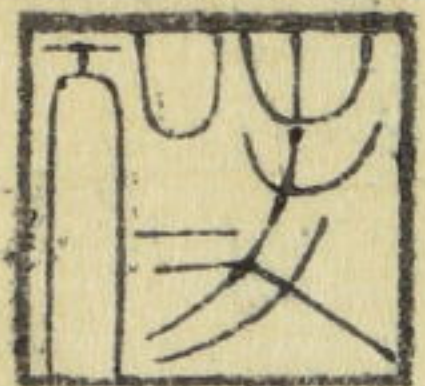
趙伯駒 字の千里らく山あり
餘竹石と云く尤人物小をす
精林清潤結狀と云く
て此をも詳かると知し
後をもとをすはて
終極小のう家の中云

趙千里

印文

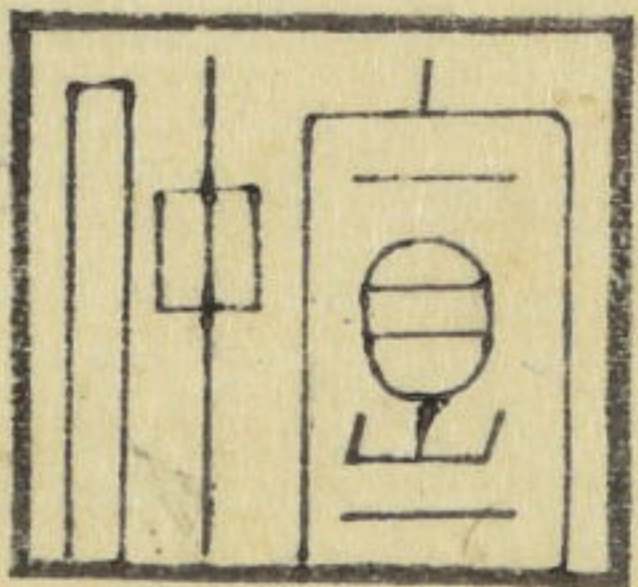


兼友仁 空の元暉と云元章が子
 かりくゝあふとつとふ山あどゆる
 僧は樹しつる 雲とけ文のち
 ちと雲しと一處乃法とをす 煙
 雲愛滅林泉懸絶 ちかちか
 てたり夫夫と夫とす 名をれん
 小ありまふれん 古入雲とをす
 妙処修ひ小角くくもをす 雲
 ていつく雲巖と塊年ふい多く
 紙上小指のくもとをす せんる乃
 中上ととり

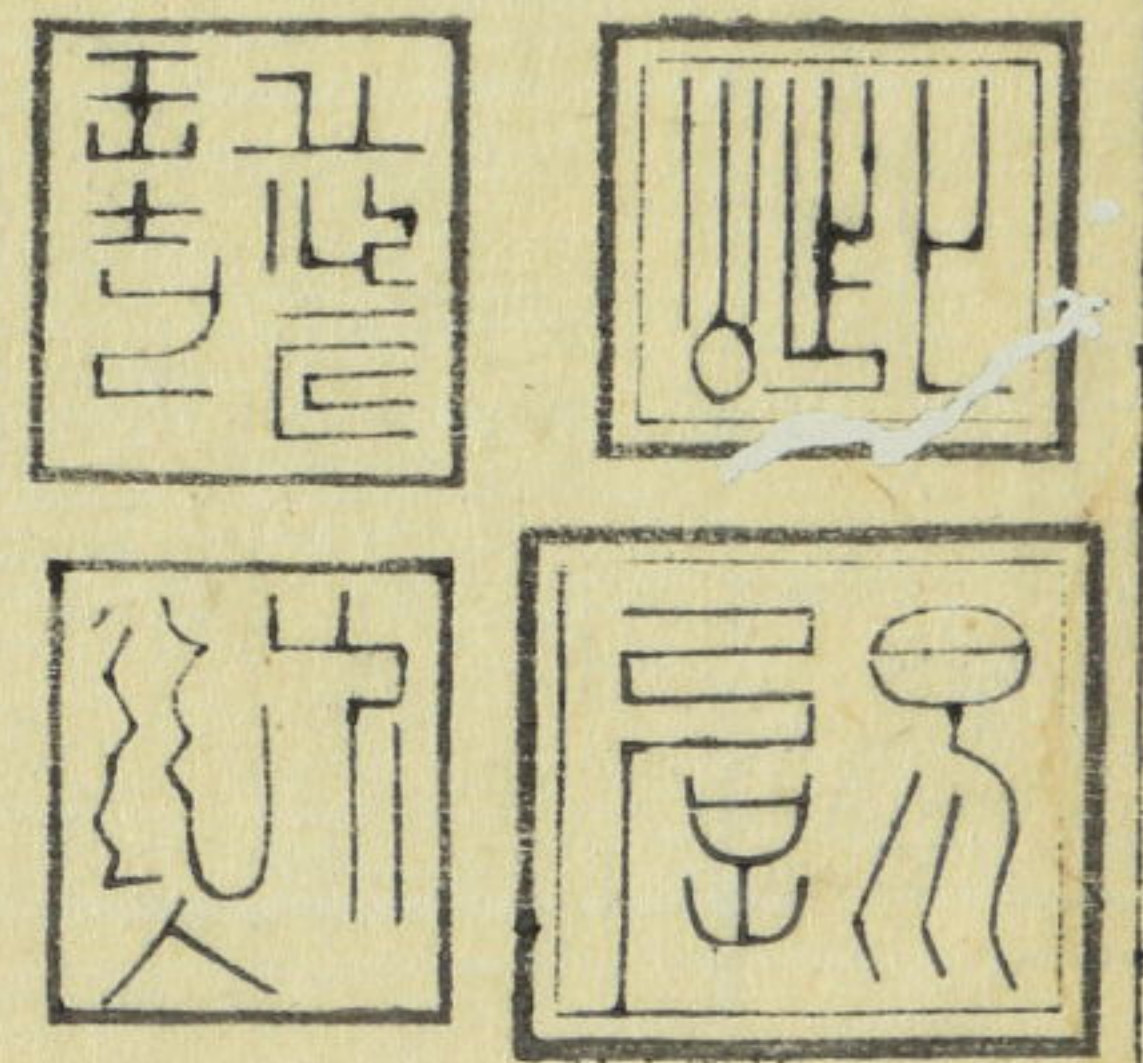


唐布 新の宣仲と云山陽の人

自くく村清を養ひ居すわあ
 とあぐくおまかり 椿木嘉竹
 舟石松柏りくあ波とまを
 とまの雲とありとりの宮の武を
 情士ふと内張邦品とまを
 とす方まのく用まるとり
 子まも又あつ風あり

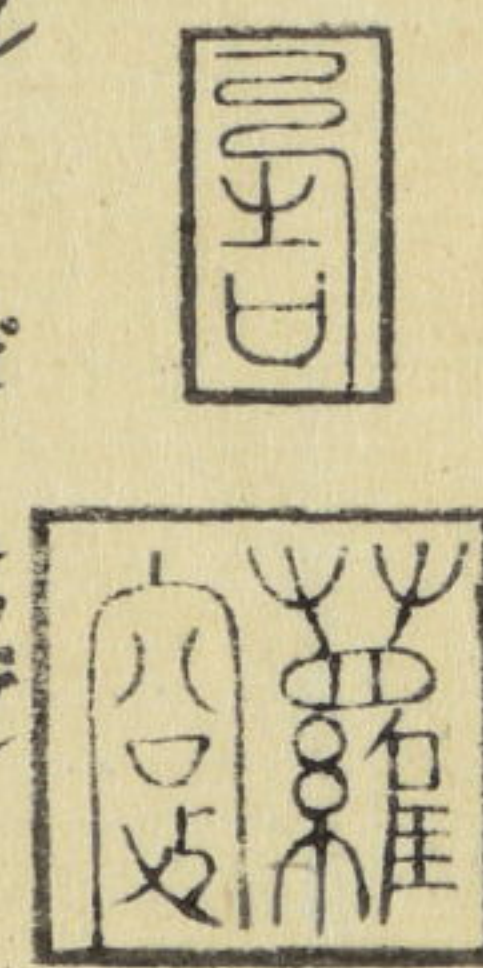
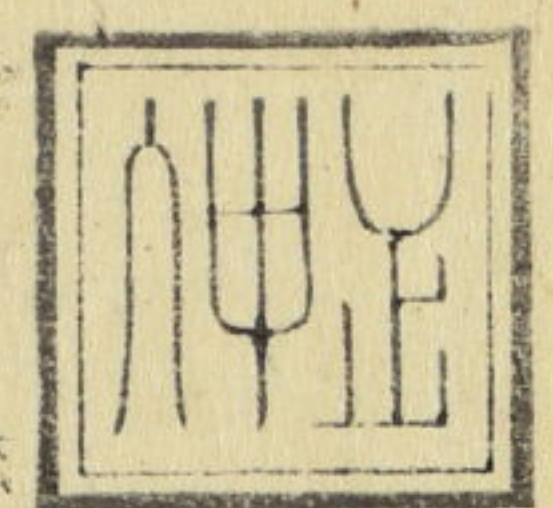


此山 陳那字ハ仍用と云又此山
 と号す所存が身形り又影ふあ
 とくすす何ふあこあ雲と何る
 折行折草 雲魚鶴橋及び雲所
 松く生まあり朝信の印ふ保す



五十四
 陽心仲 字ハ叙雅江有乃人
 楊補之 甥也 後小英若小
 居す 同居と 號す 田統年
 貴仕す 梅竹 ね ね ね
 清雅 傳 乃 乃 乃 乃 乃
 菊 色 又 徳 あり 又 ひ の 術 之
 宗 之 子 亦 小 新 意 之 出 せ り 陽
 氏 叙 雅 之 弟 也 月 也 有 宗 乃 下
 後 あり

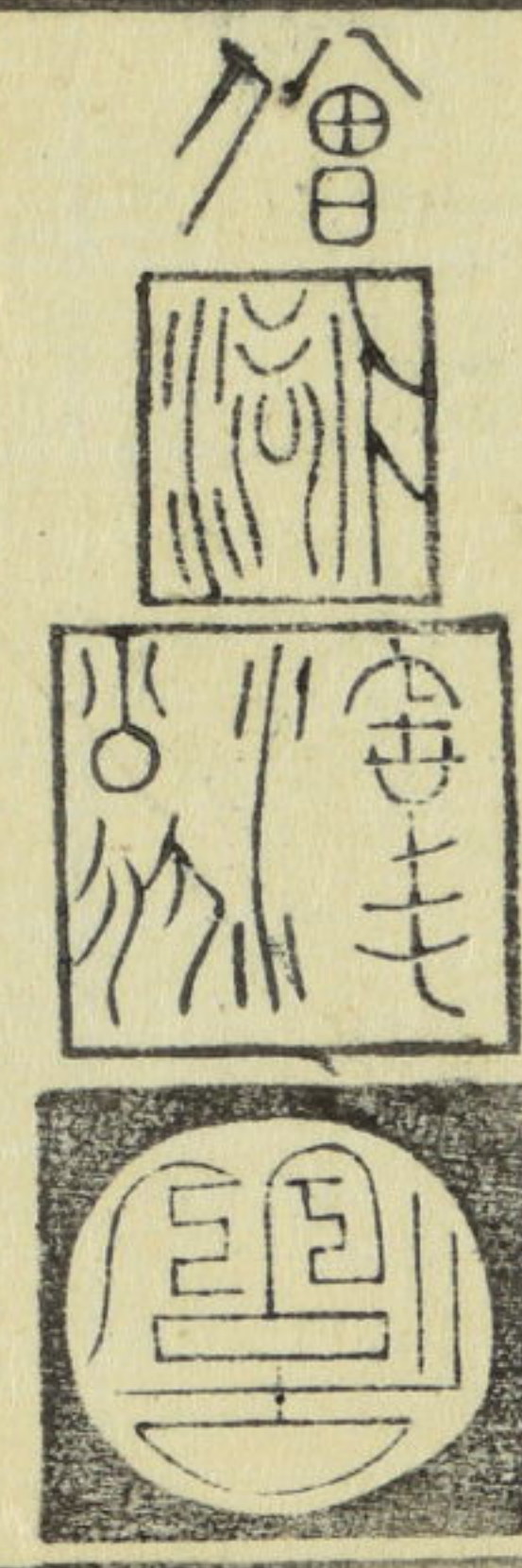
強 備 履 意 居 之 志 不 ず 而 脚 乃 六
 通 ち 小 居 す 叔 漢 之 意 意 相 造



洪 備 子 温 字 八 仲 云 云 日 祝 之
 号 す 亦 雲 乃 温 温 之 他 乃 自
 一 家 乃 法 也 乃 人 之 之 乃 乃
 乃 又 知 陽 子 之 号 す

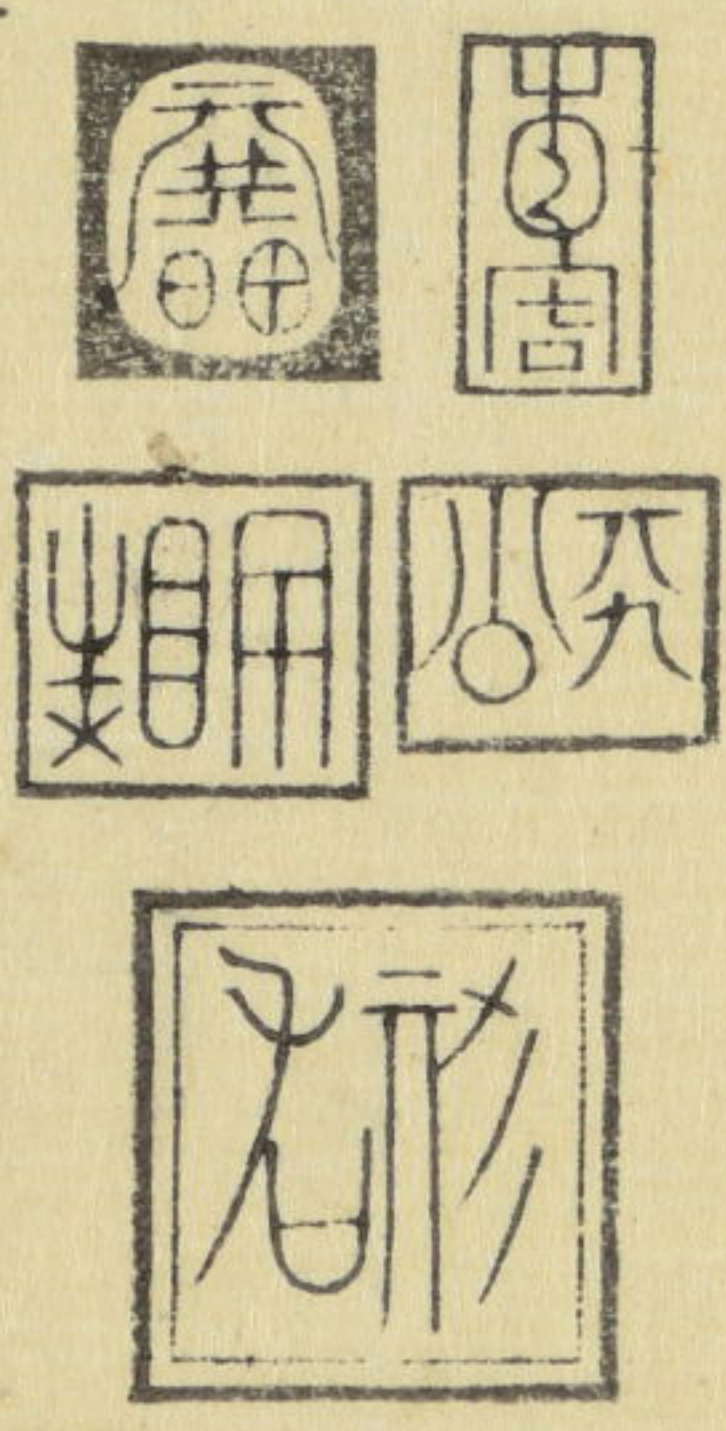


僧仁派七... 乃甥たり... 行の命... ともども... 多甲十年... ちる耳... 山あり...



寺... 字... 補入... 此... 師... 縁... 山...

ある... 丸... く... 此... 李... 宋... 隆... 寺...

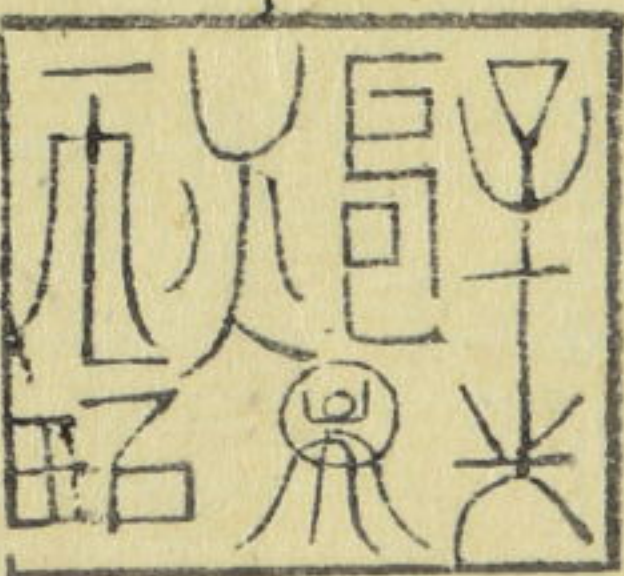
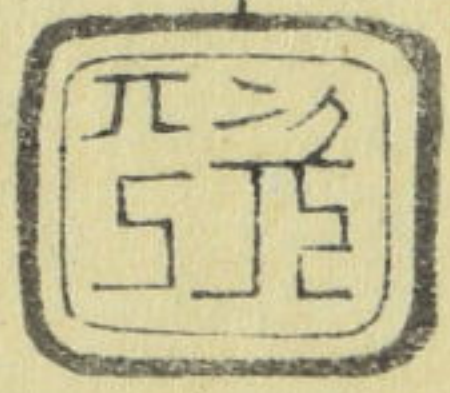


ハ... 才... 一... 家... 畫... 世... 卷... 云... 山... 寺... 隆... 寺...

Handwritten marginal notes on the left edge of the page.

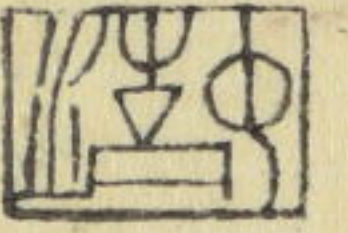
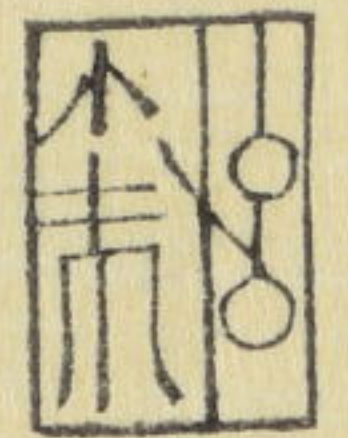
ふかあふ次平に将仕那小箱を了
片次平の承旨部、魚院後假と
なり入金幣と揚ふ

閣

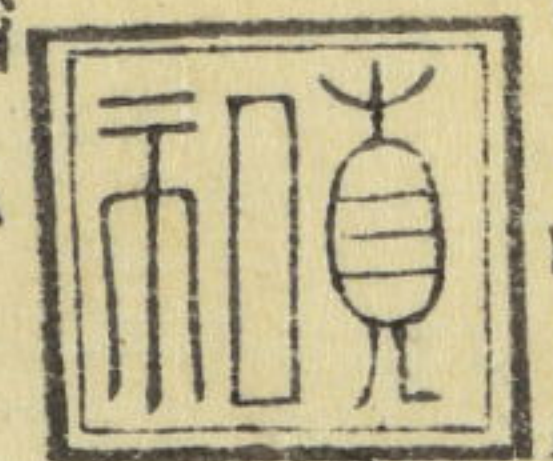


李三
同仲 宣和の百王の承旨部を了
る圖次平が文かりの三人の物降
色あふとあぐらに之の半とあ
ぐら物降の承旨部を了る物降
部小箱の承旨部を了る物降
李三 承旨部を了る物降を了る
承旨部を了る物降を了る物降
承旨部を了る物降を了る物降
承旨部を了る物降を了る物降

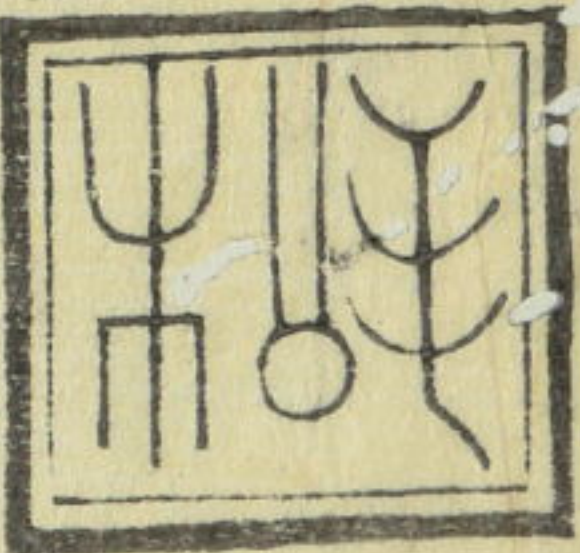
とあぐらとあぐらとあぐらとあぐら
尤も承旨部を了る物降を了る物降
小箱院小箱院を了る物降を了る物降



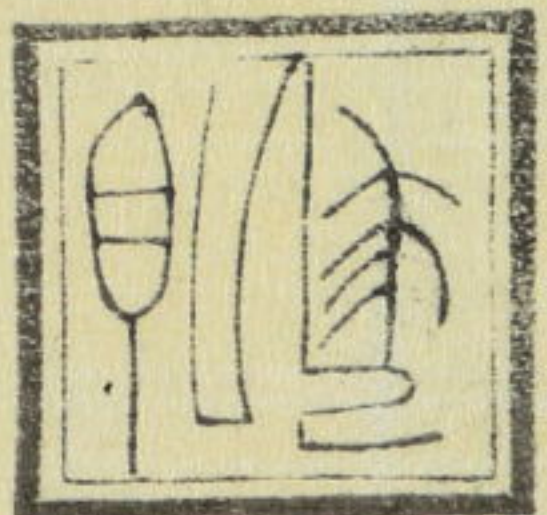
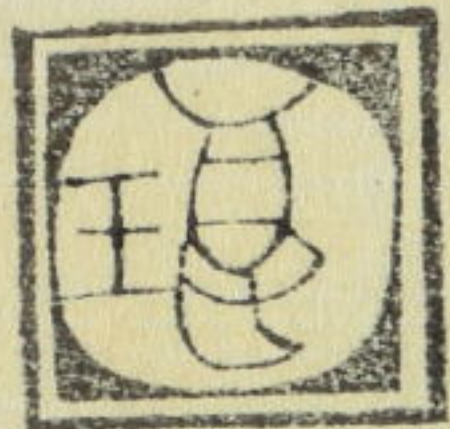
李五
興部 何中の人を了る物降を了る物降
承旨部を了る物降を了る物降
承旨部を了る物降を了る物降
承旨部を了る物降を了る物降
承旨部を了る物降を了る物降



李六
毛松 漸人なり或は異部の人
かよりよく承旨部を了る物降を了る物降
承旨部を了る物降を了る物降

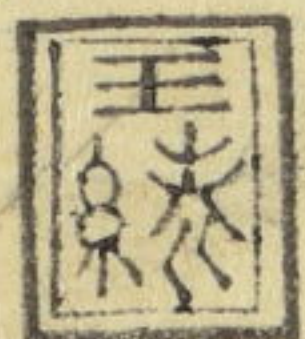


白良王 儀唐乃人たりて其通
 親鬼神と云く寧理の好ぶる
 院小待張せし子乃用和輝依
 るれ字とほく賣祐年申小重
 院小待張せし子乃用和輝依



王輝 儀唐乃人たりて其通
 量院 儀唐乃人たりて其通
 断つたらしむり又よく山と云

系平本より書くたよと月と
 後と書らす邊ふ名付くたよ
 ぶとよと来書つとよす



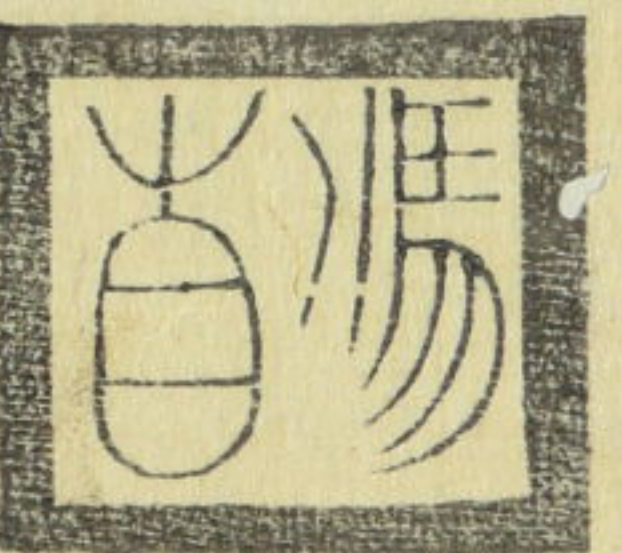
隆青 李唐と呼らてゆふと
 信るるらく書はとゆりて書成
 用るる月清書易易の又凡か
 らずとねんで送書と月ゆ未
 儀唐乃人たりて其通
 院小待張せし子乃用和輝依



大正

文考公乃後孫たり目

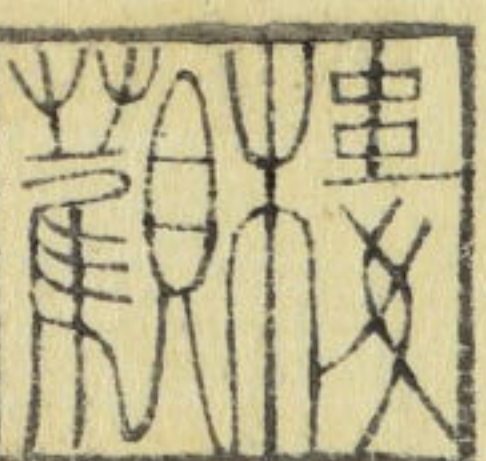
始并と号す兵門ふ富者指すも、
運石と号す其好格小入



陸

織屋人たり之に花を

人物と号す山ありて遠くはるか
峯はゆるり細細たりて威
儀乃車屋院小紙假と案上

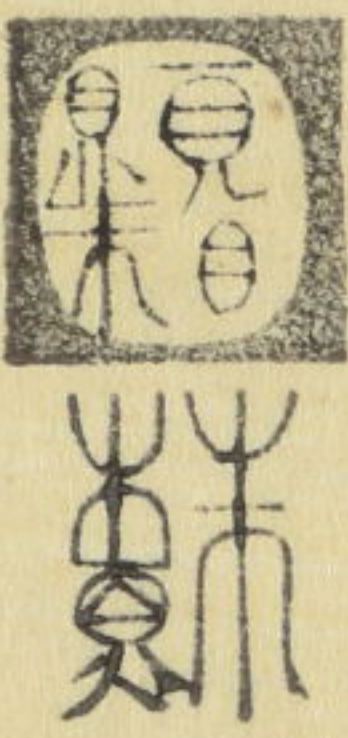


陸

織屋人たり之に花を

山ありて遠くはるか
峯はゆるり細細たりて威
儀乃車屋院小紙假と案上

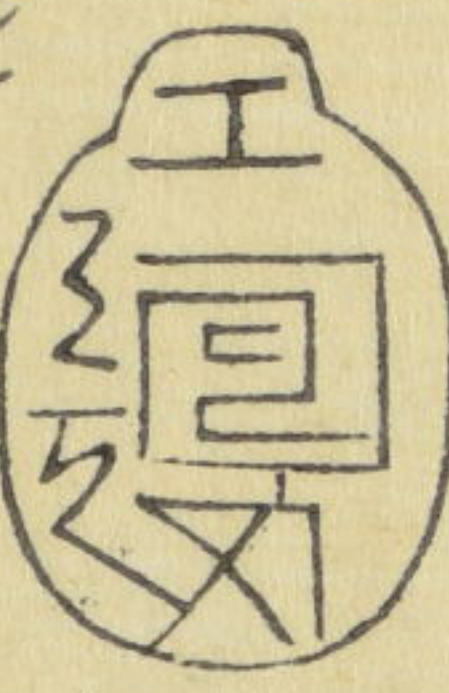
より嘉慶の年、
ら傳者それを法
るをとりて案上後乃下



陸

織屋人たり之に花を

湖乃全糸と号す
之を案上格乃手
案上乃下とす

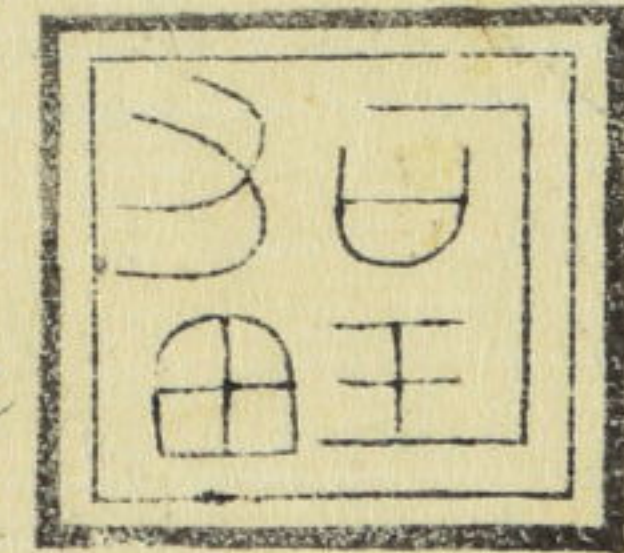
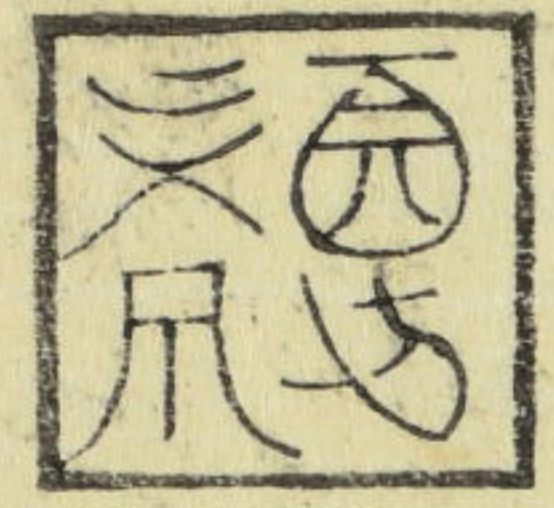


陸

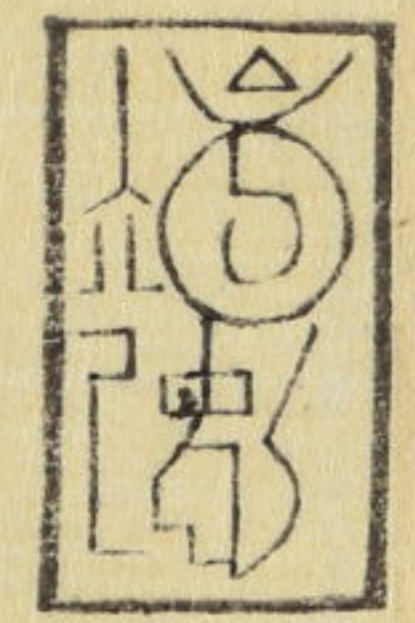
織屋人たり之に花を

色院小格格と号す
く格小格と号す

李彬 字の仲実息無なる人
号す薊紅乃人かり官の
有平章政事乃の内侍
薊画公小封で文文
うく竹石拈撥とあぐ
王澹濃ふもあは文
娘黒色乃乃れい李願と師とす
かまんとあせふ馳とえの



李士行 字の道通と云文簡が
まかり官の黄若知乃の
竹石とあぐ遊学とあぐ
まぬれふとく尤ふあふ



柯九思 字の毅中と云丹紅生
号す台列乃人かり官の
周鑿書博士乃の博
文とあぐすとあぐとあぐ
文湖列と師とす又とあぐ
あぐとえ色乃の

謝顛 字の耀卿と云
す大者乃人かり
負志史と家とす
と云人字と耀卿とあぐ

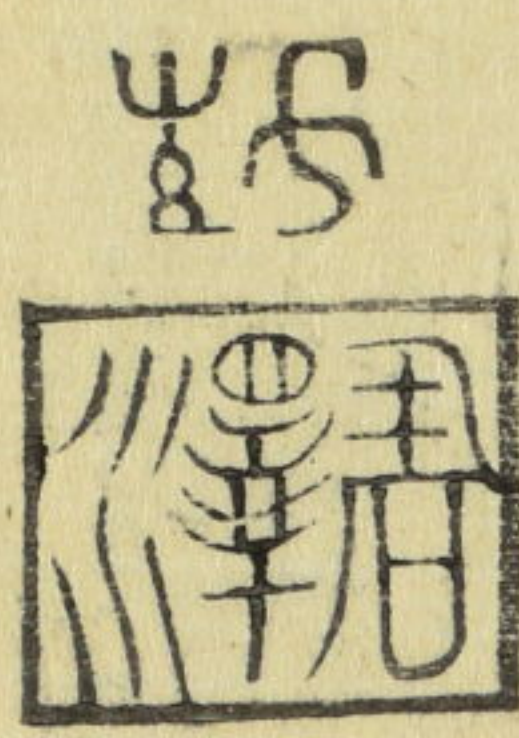


〇海山會集

山ありてはくも遠夏種とまなり
耀卿印文



孫君作 杭人なり山ありてはくも遠夏種とまなり
くもあすもま夏種とまなり



揚月洞 花を珍鹿とまなり



王剛 室のありてはくも遠夏種とまなり

杭人なり初めて母君とまなり
趙文敏公のこれ小指の印とまなり
あくも遠夏種とまなり
花を珍鹿とまなり



五玉洞 吳彦輝の室ありてはくも遠夏種とまなり
精氣ありてはくも遠夏種とまなり
あくも遠夏種とまなり

○唐公印

全 四十二



吳庭暉

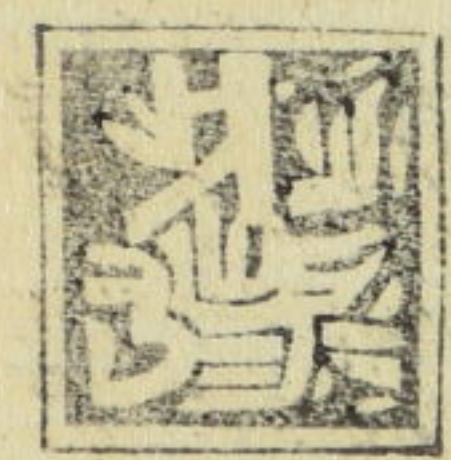
吳庭暉の印



蔡玉淵

西湖蔡玉淵の印

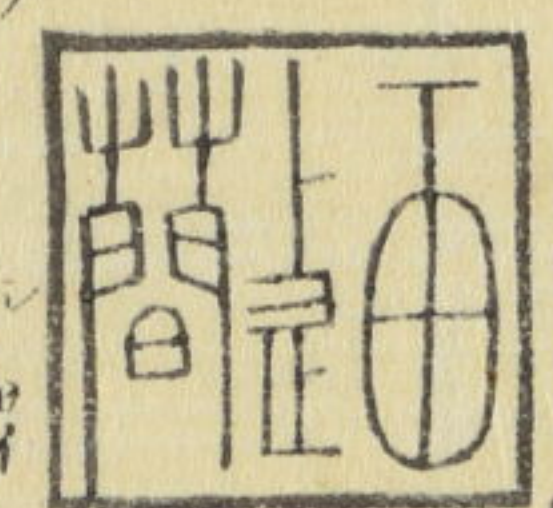
蔡玉淵乃下とせり宋乃惠業と
師とて山と名く



王迪

王迪の印

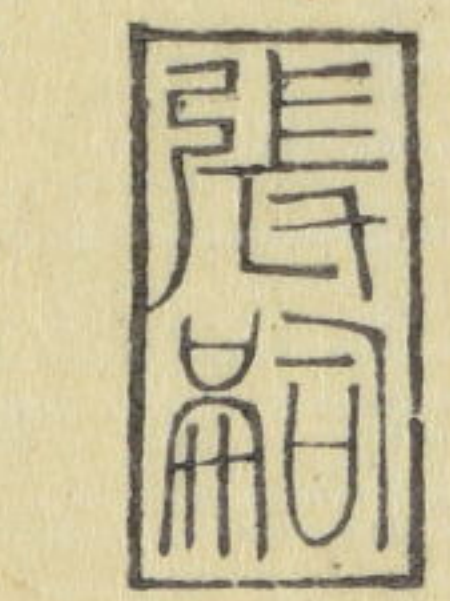
紙入なりゆくあ仙と名く



天師張

天師張の印

終と名く又のくをれと名く
序山乃名と名る



道士蕭月潭

道士蕭月潭の印

道釈人物と名くは字月丹り



僧の書

僧の書の印

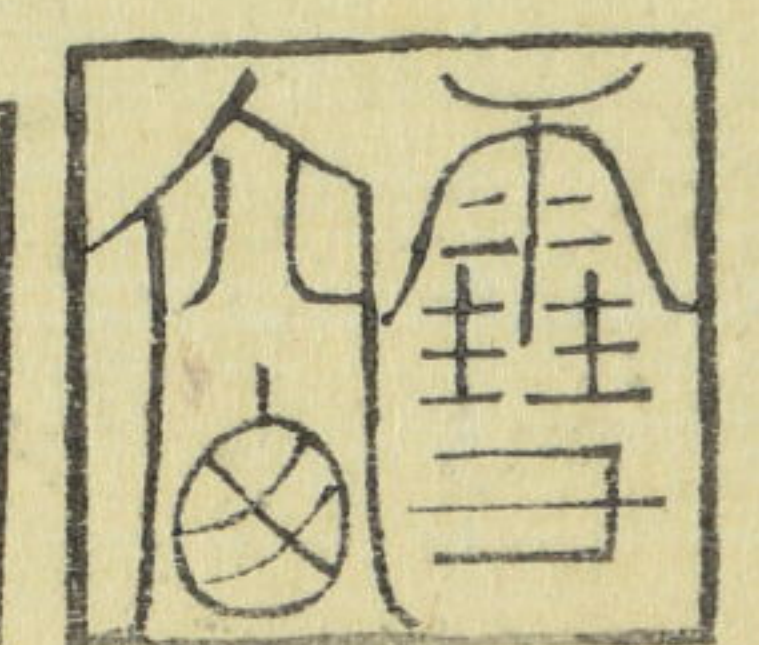
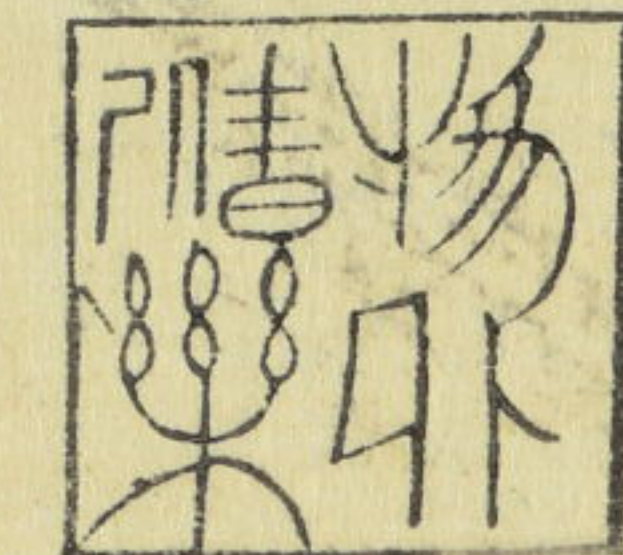
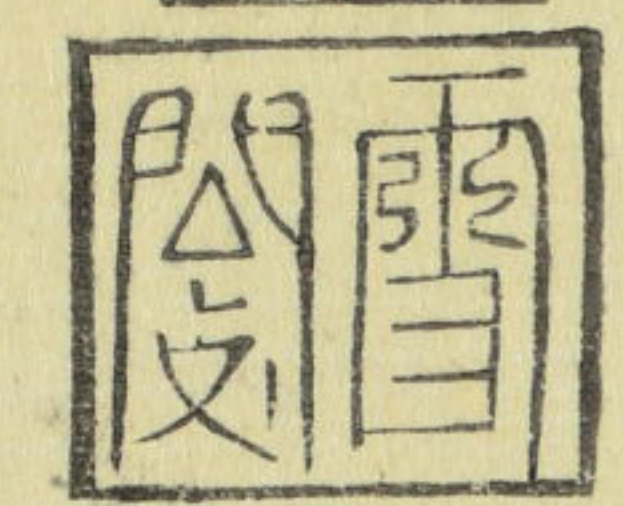
拈木高僧と名くは字と名

○書及會傳

○書及會傳

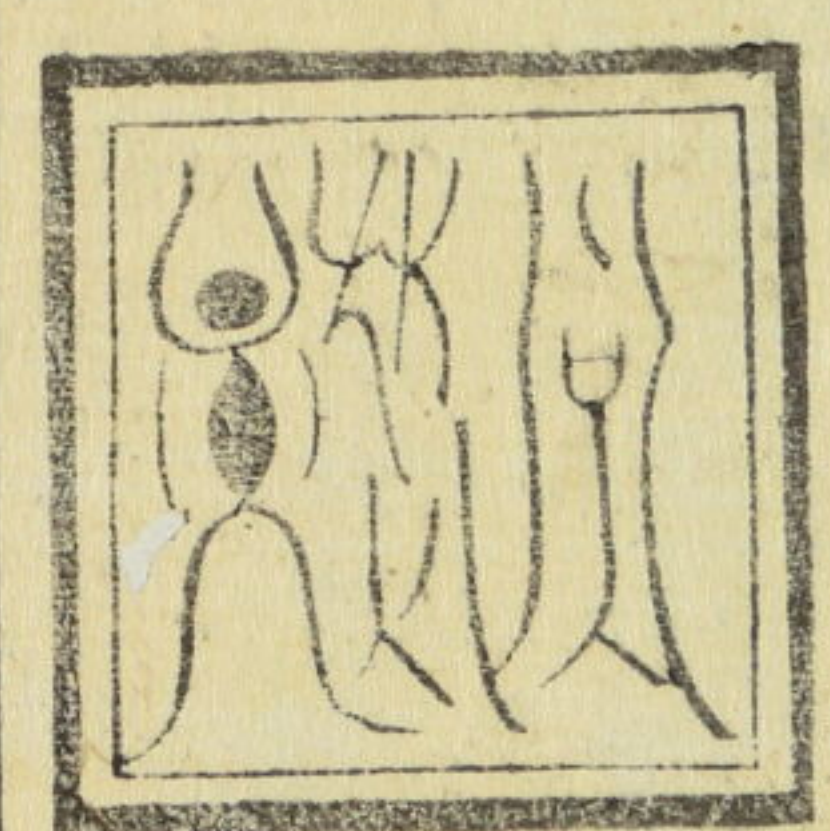
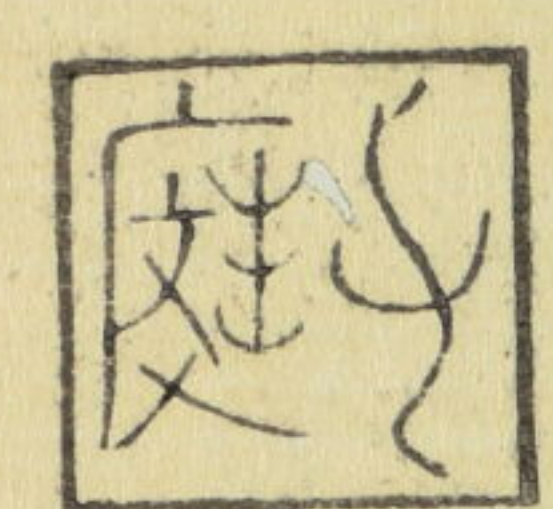
坊小部とて今一交房乃清抗と
 しろんさくじ

僧



拓子庭

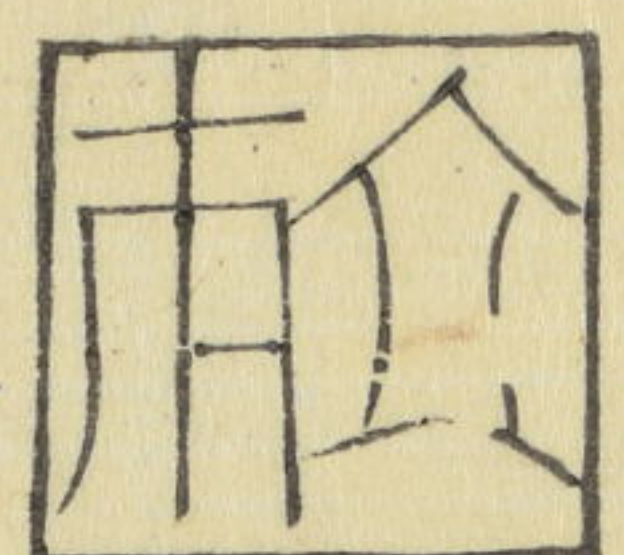
信記



宗法英強屋原一子二百八十
 七人乃外増補角信中

王立中

牡丹と佐の中のとす



色と氣作

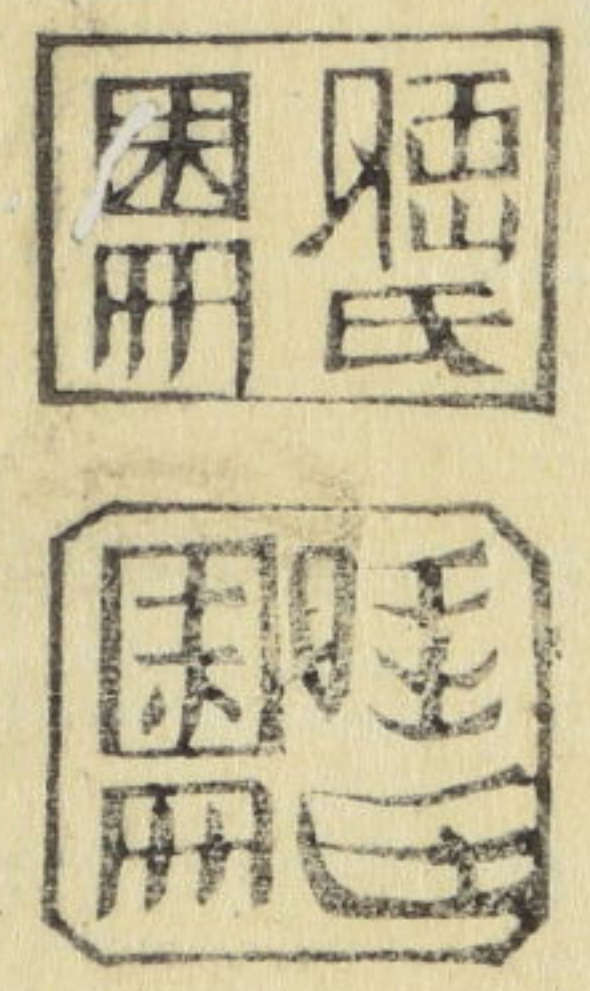
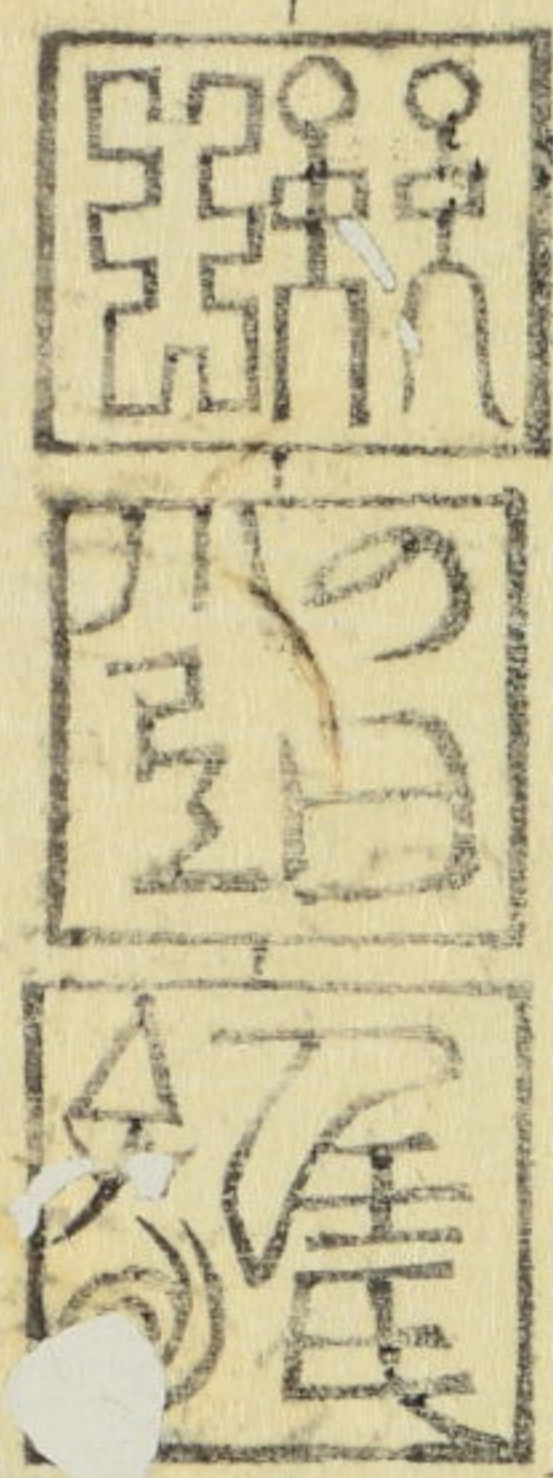
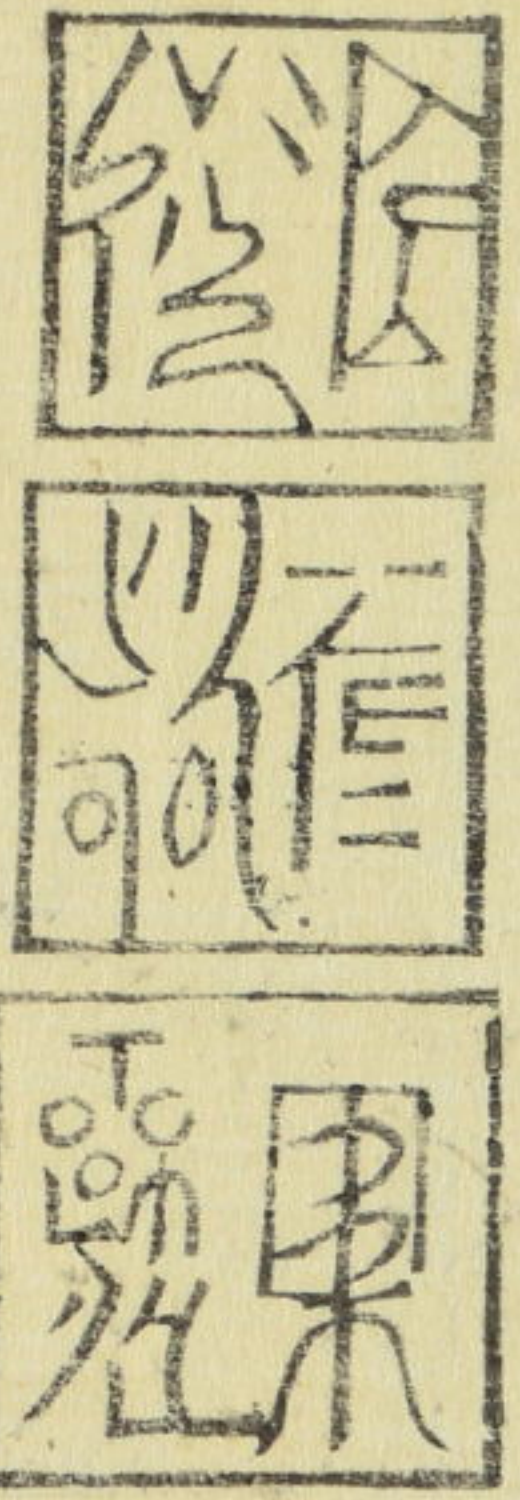
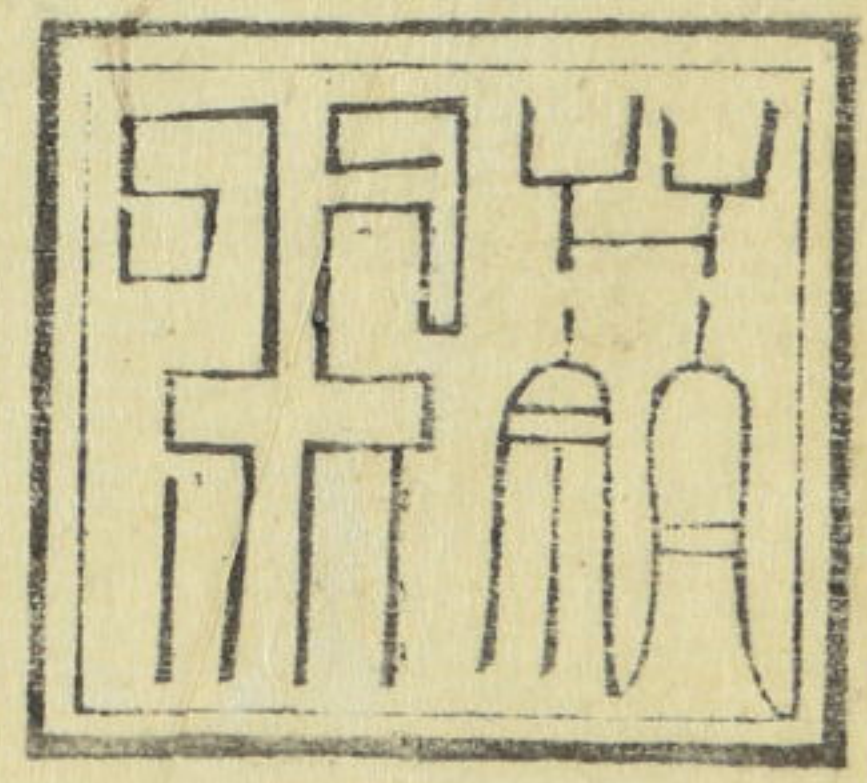
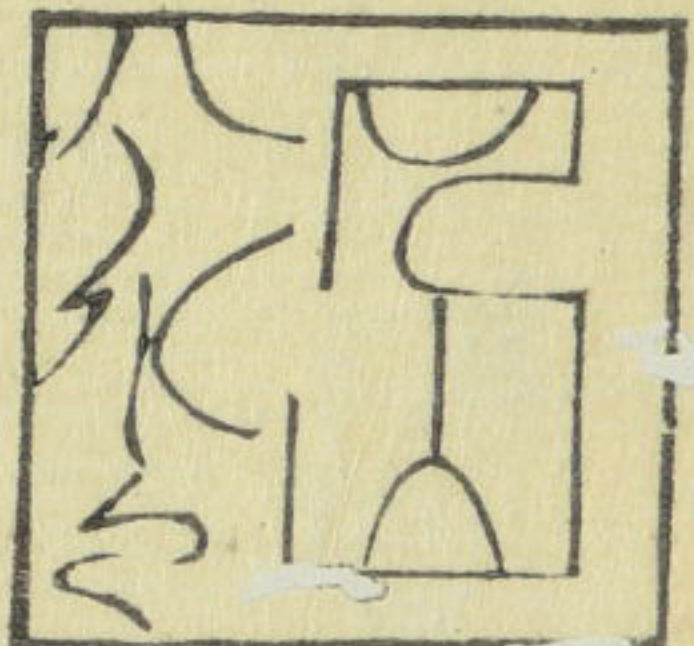
字ハ文進宛多紙紙



任仁發

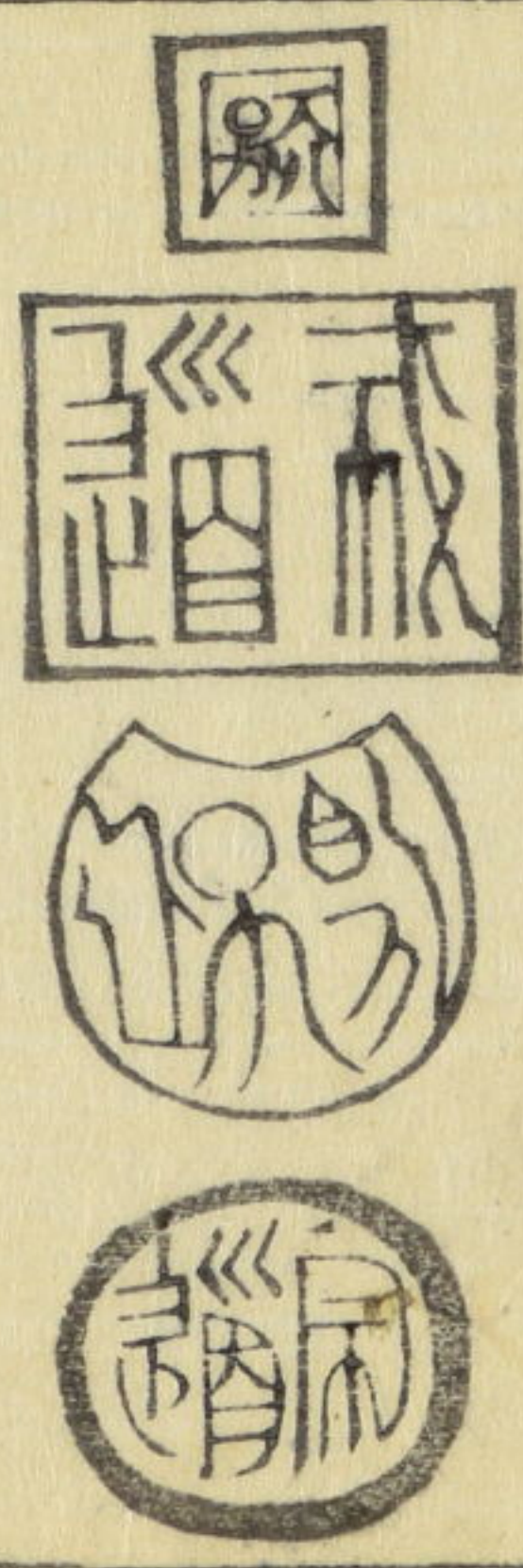
字ハ子明と云月山乃人

と号す之と人ると云くふこ
 乃と云す



是より以下多^ク漢^ノ傳^ハ記^ス不^レ見

本^レ考^ス分^ク中^ニ書^ク出^ス 成^ノ家^ノ通^ス 中^ニ多^ク上^ニ後^ニ多^ク



月^ノ登^ル 中^ニ多^ク上^ニ後^ニ多^ク



品齋
 天壘
 韞
 貞

任康民
 上後
 東
 旺

備去準
 金林
 程師
 貞

韞
 韞
 耳
 貞

由命
 唯十
 余
 貞

張恩恭
 張
 貞

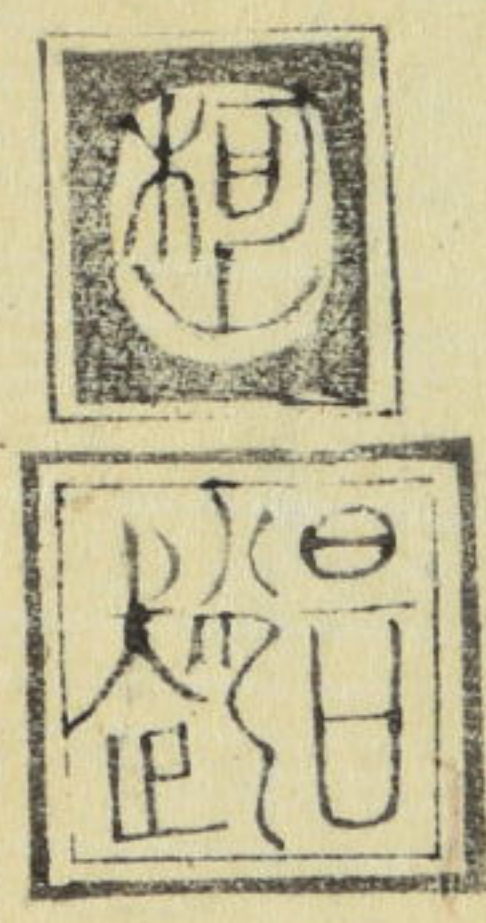
五季子



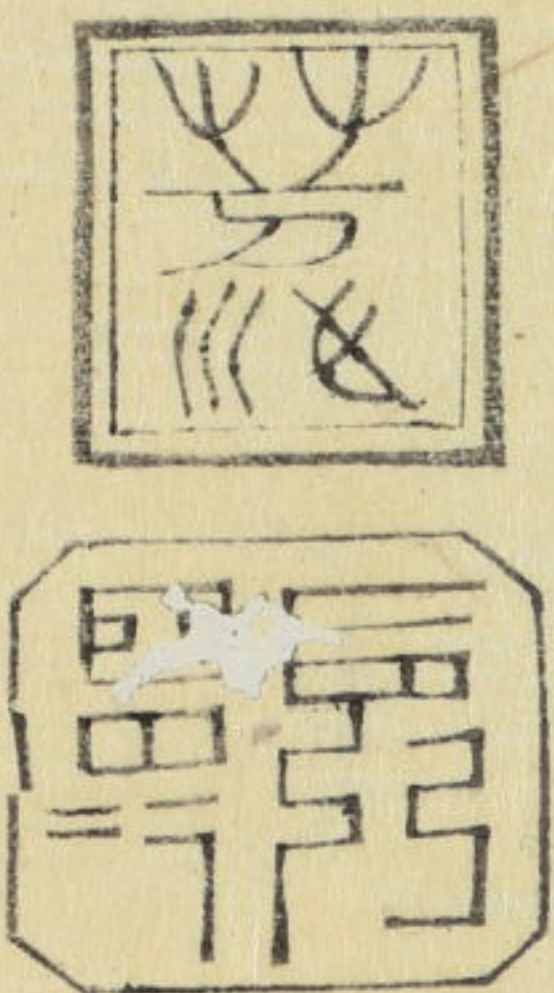
板色



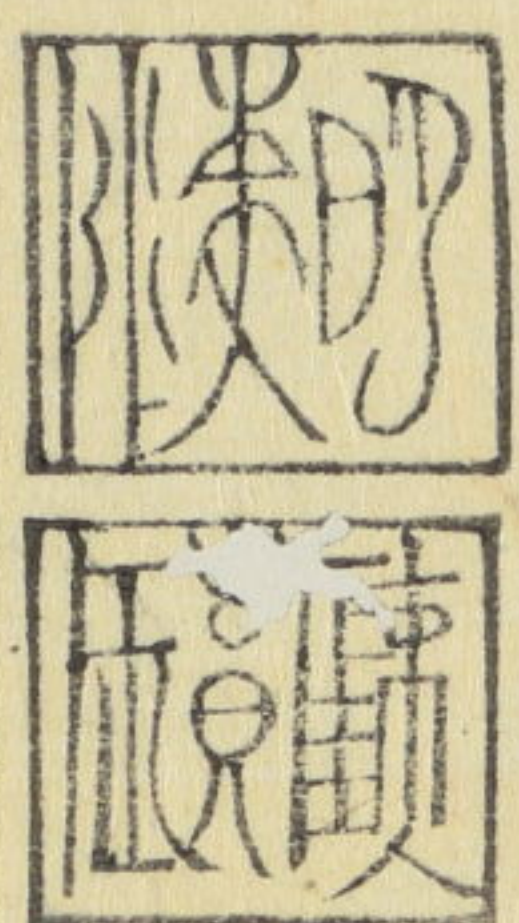
柳山



張



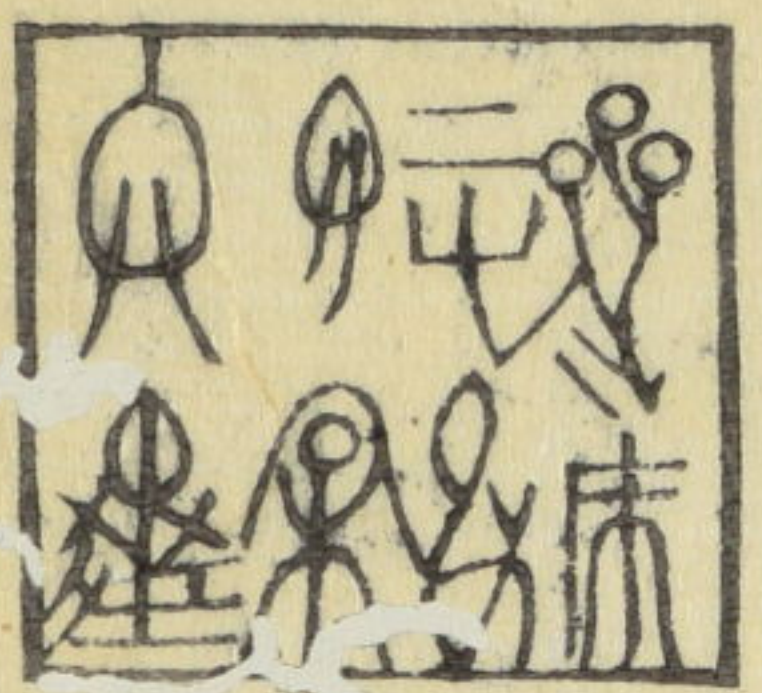
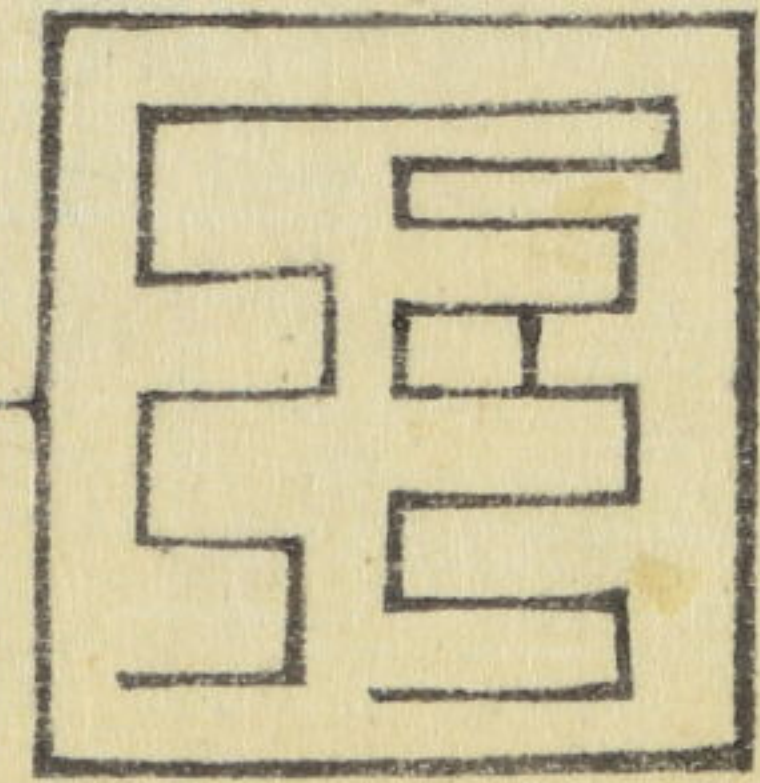
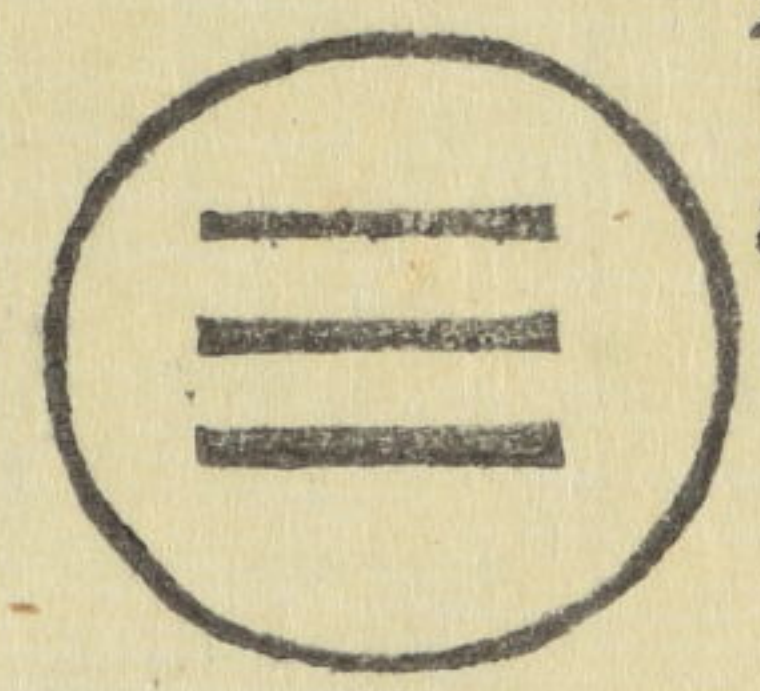
昭藏鏡



西合居士



年



宮山
西王
八

煇
初

木
子
人

門
喚
園

命
鼎
陳

陳
世
英

陳

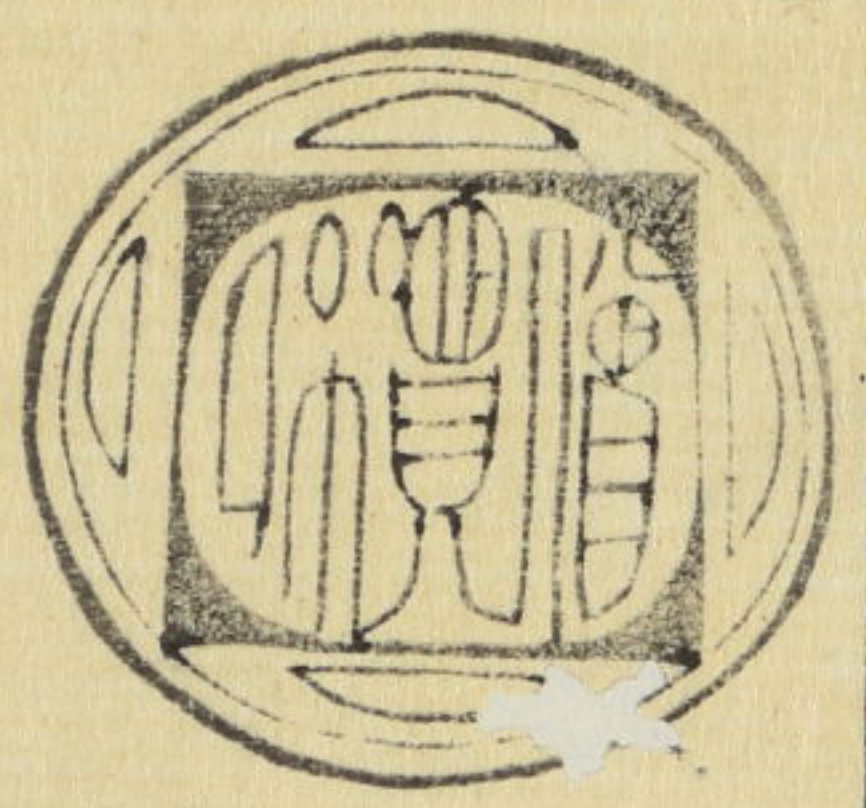
右
上
為
終

中
法

柯
澄

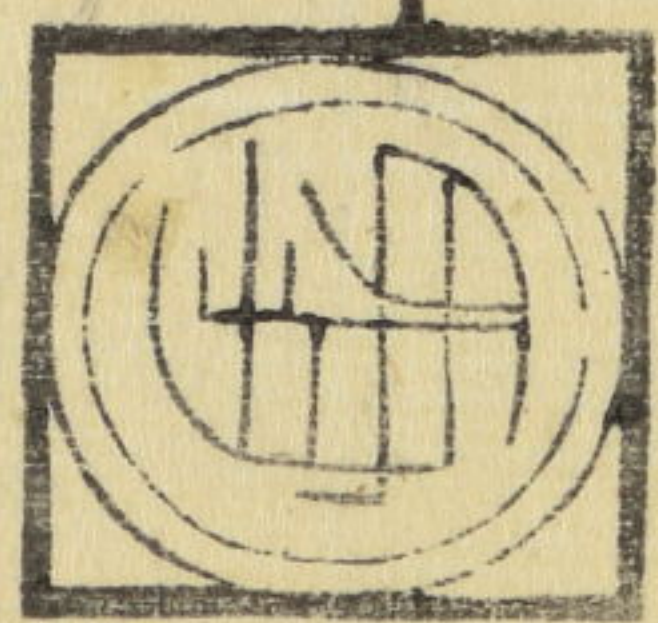


緝
月



閔
丹
士

朔



王
元
章

王
王

元
章

高
然
暉

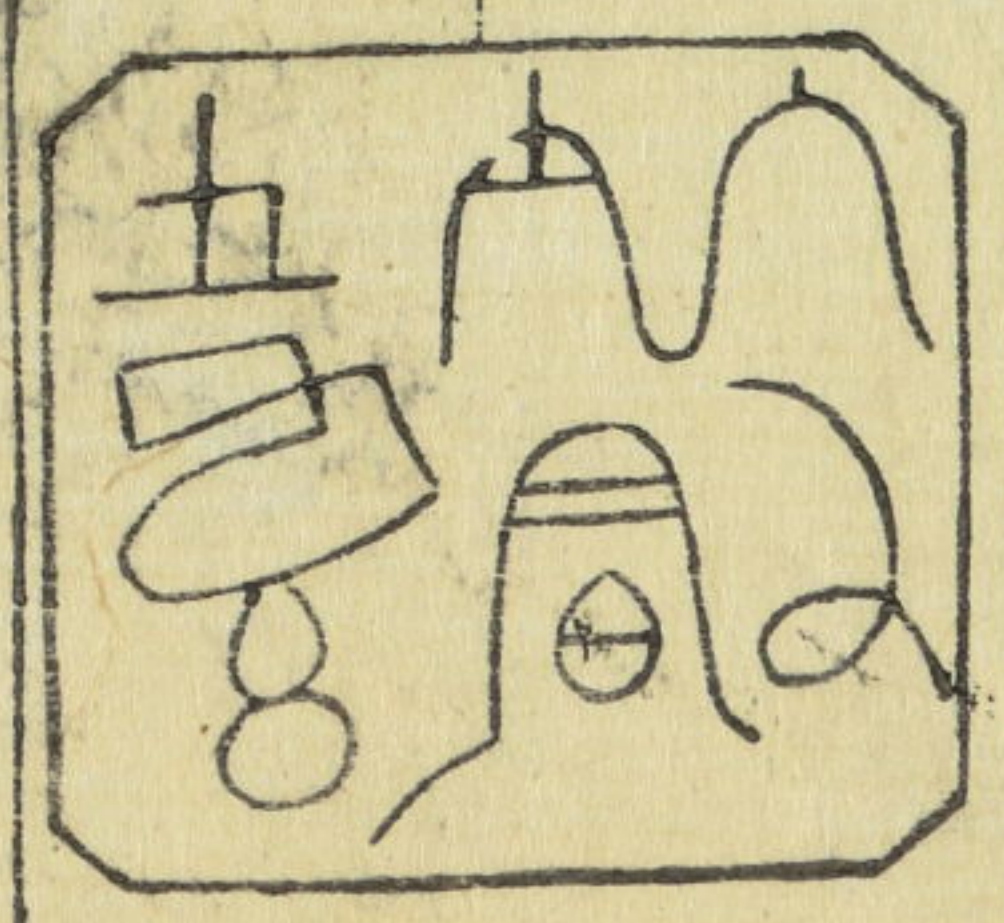
高
然
暉

百
十五

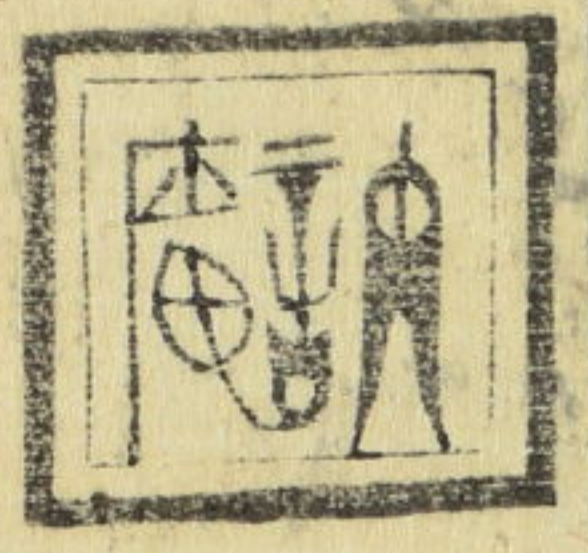
張伯洪



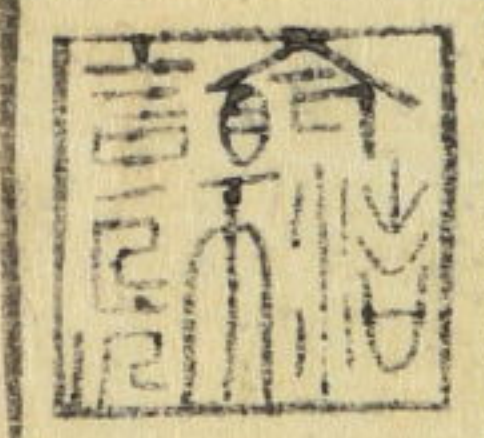
中堂山



頴庵



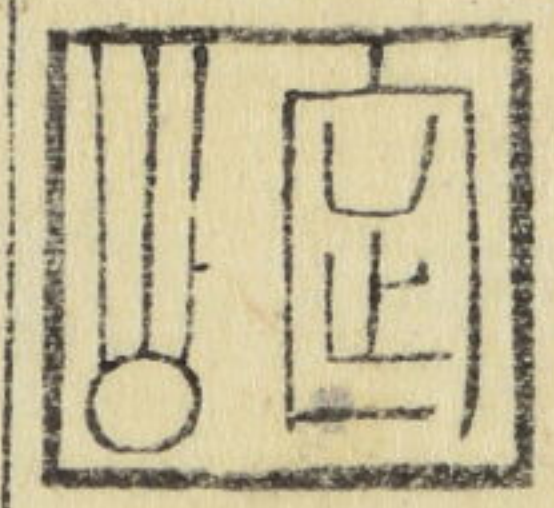
諭法師



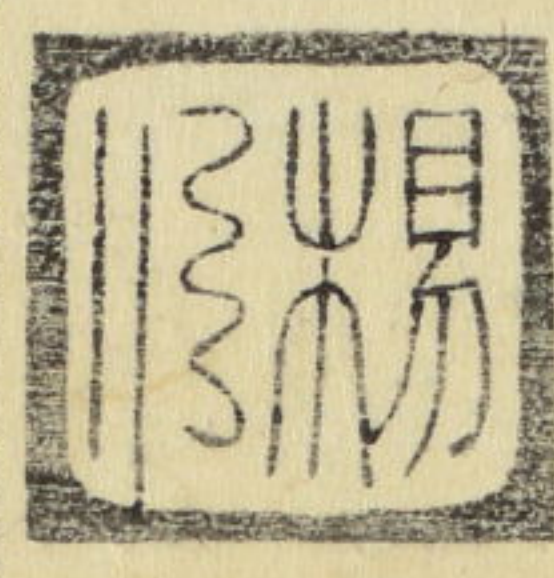
張芳叙



下絃山



徐澤



張水涯



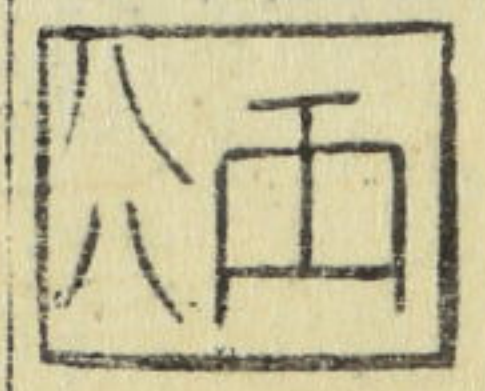
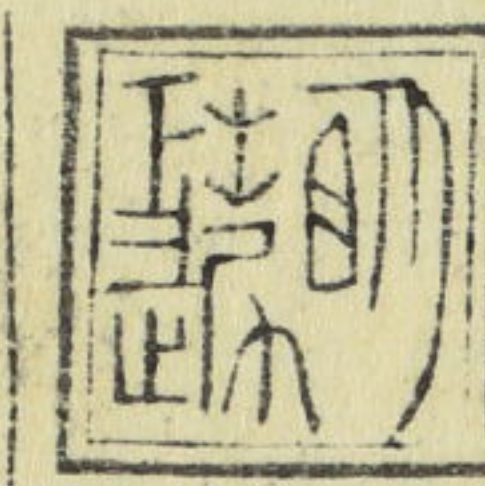
李宗白帝
百七四



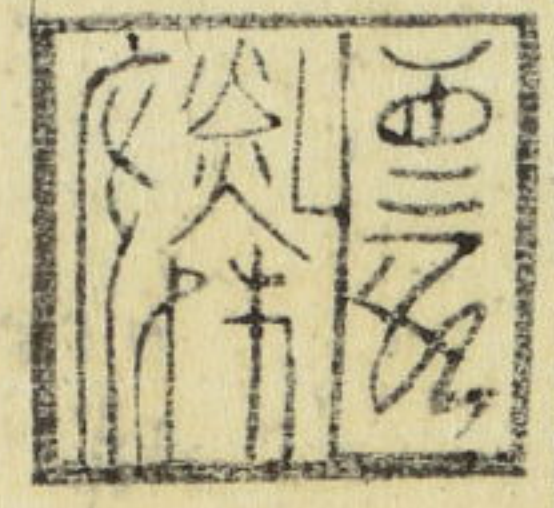
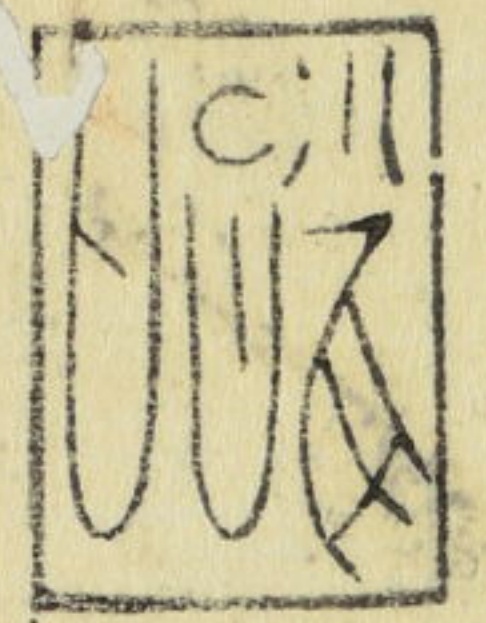
李亮
百七五



夏明
百七六



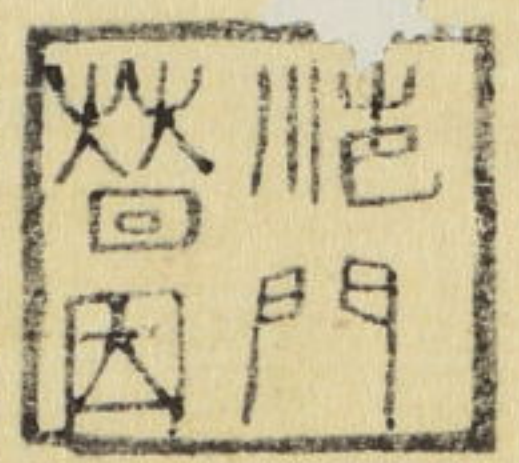
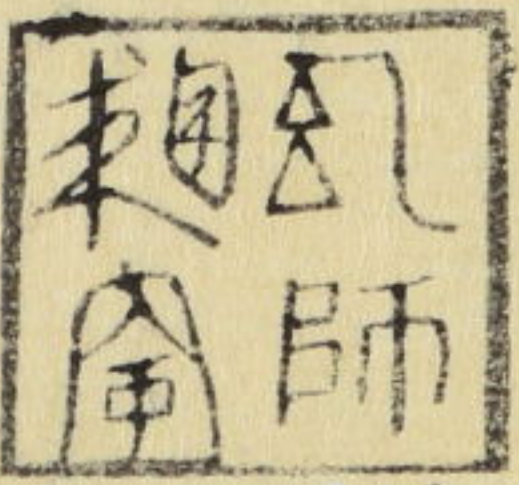
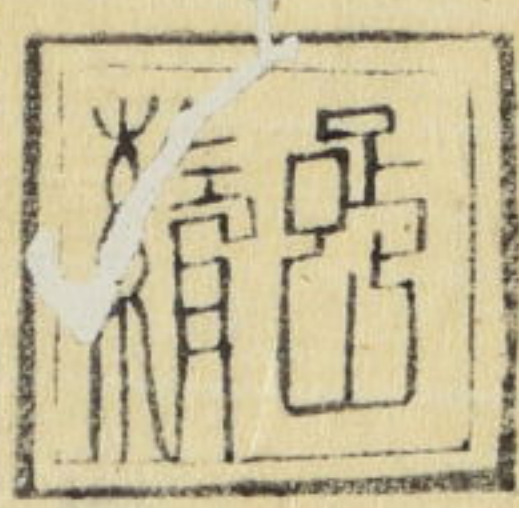
張德
百七七



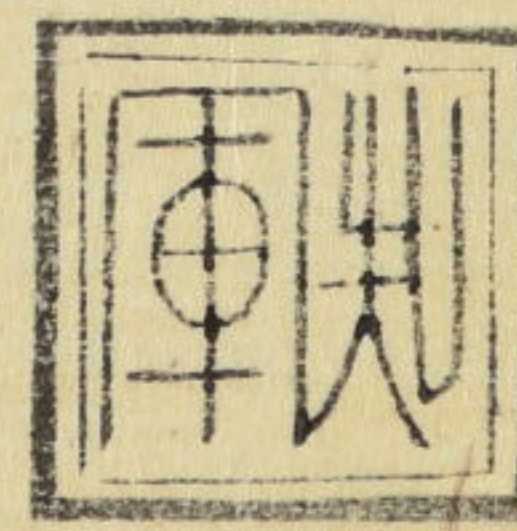
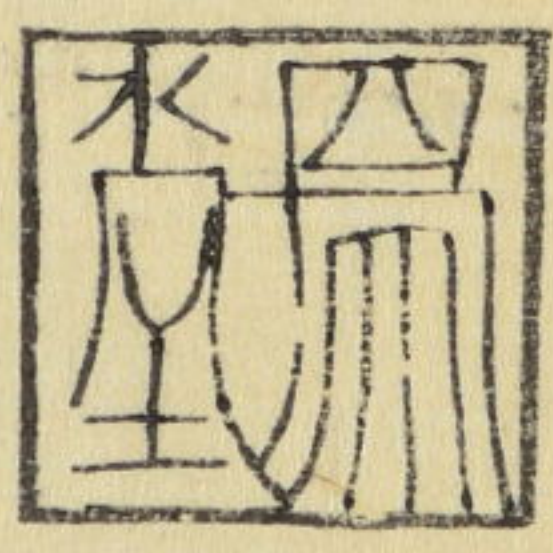
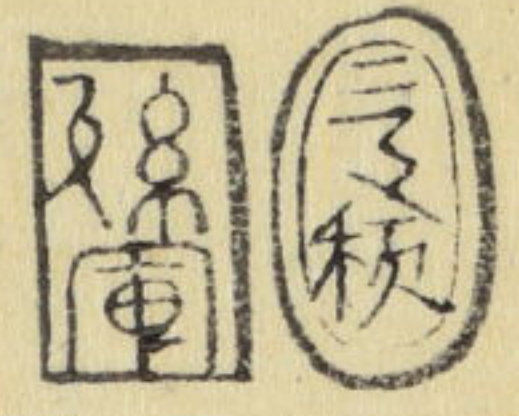
柳芝
百七八



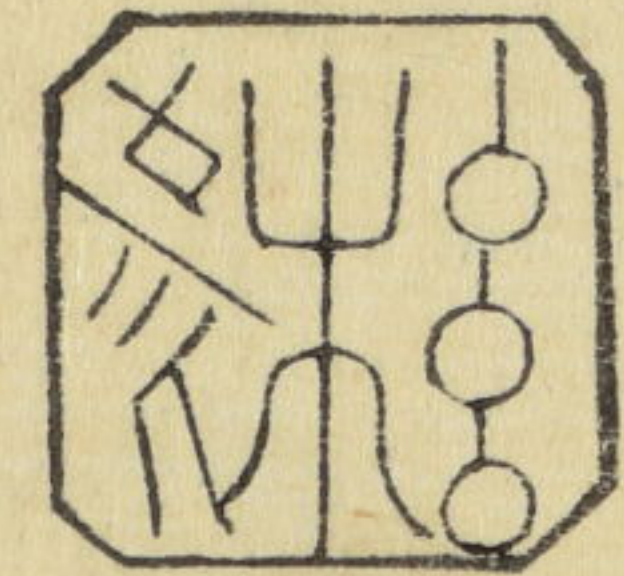
周
百七九



孫如
百八〇



用田
百八一



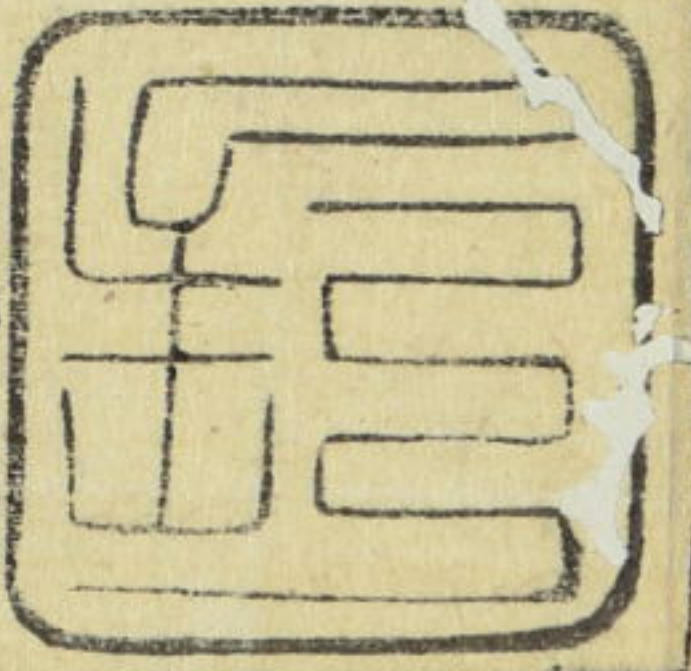
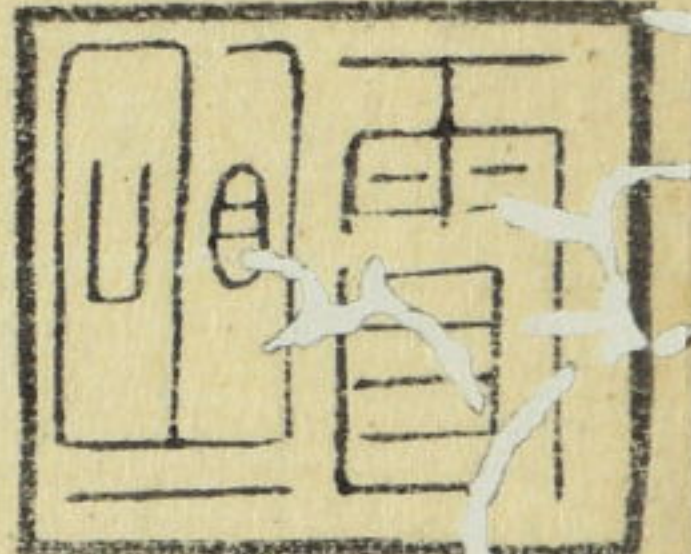
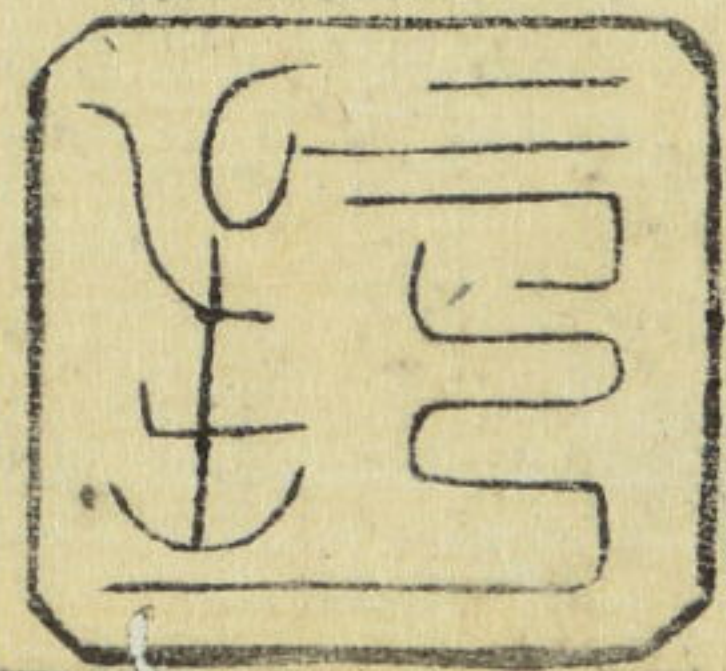
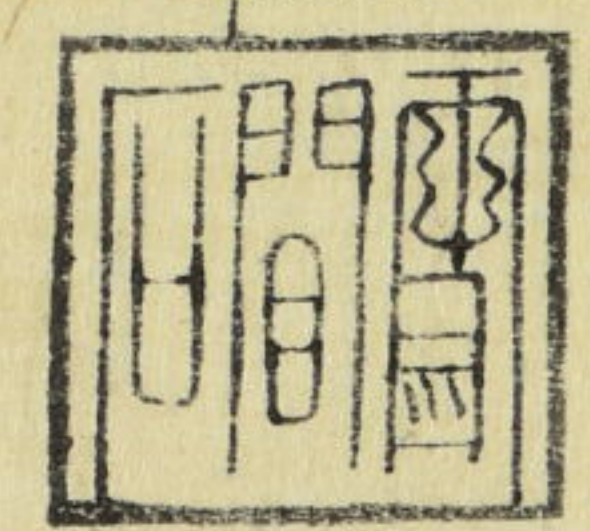
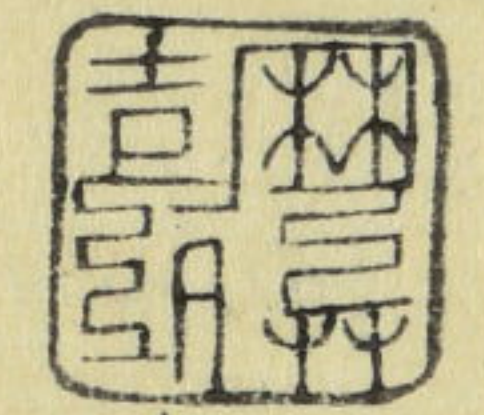
張永
百八二



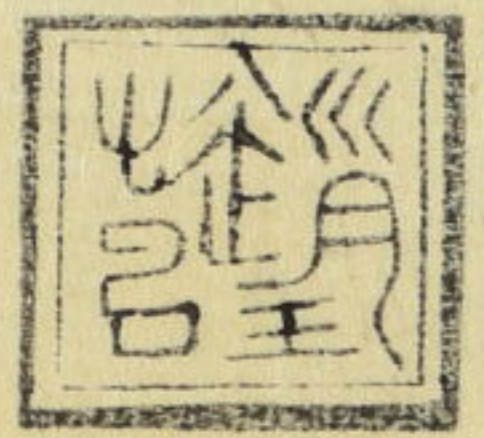
金

金

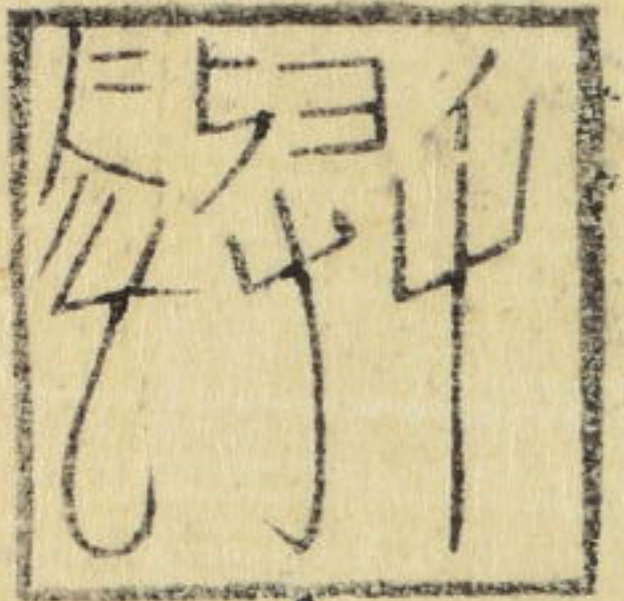
電洞
頁三



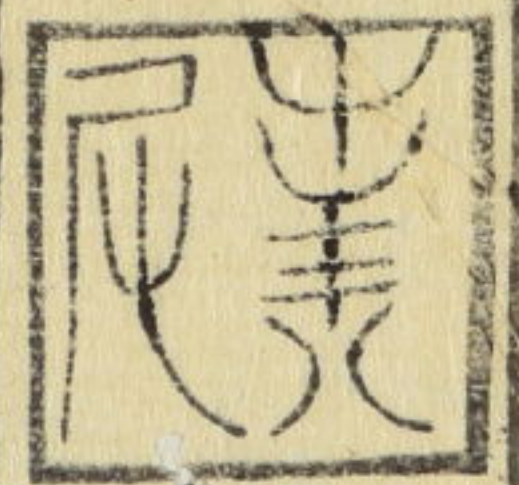
衡陽綠
頁四



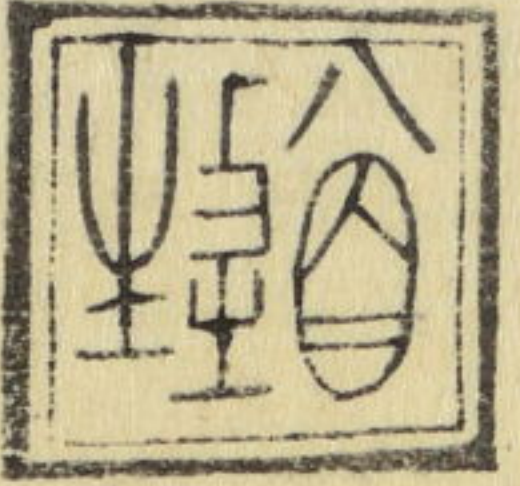
揚校
頁五



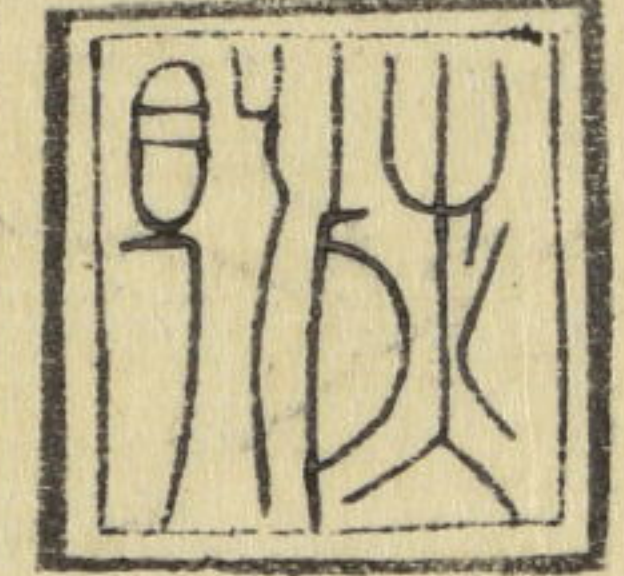
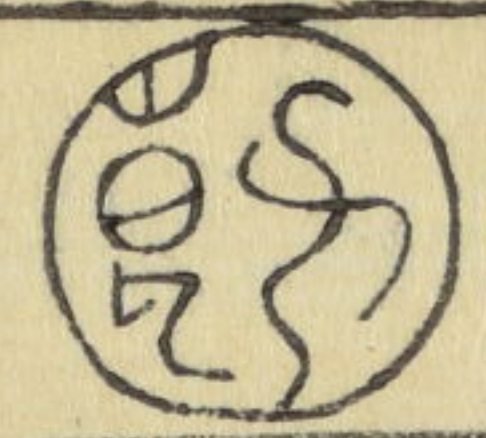
李竟民
頁六



一唐乃之
頁七



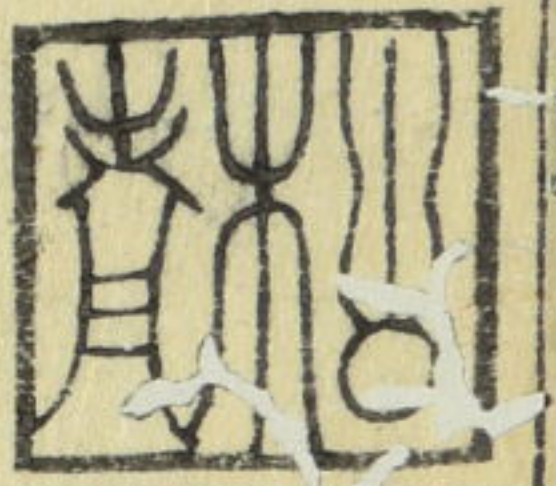
子良
頁八



仲超
頁九



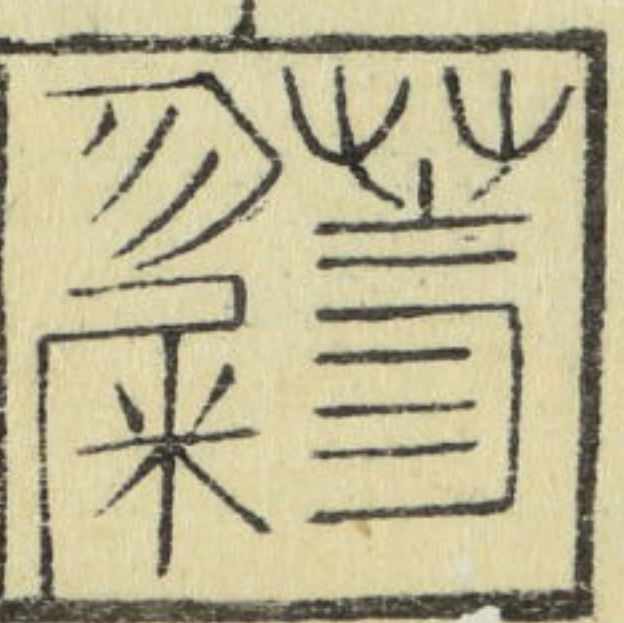
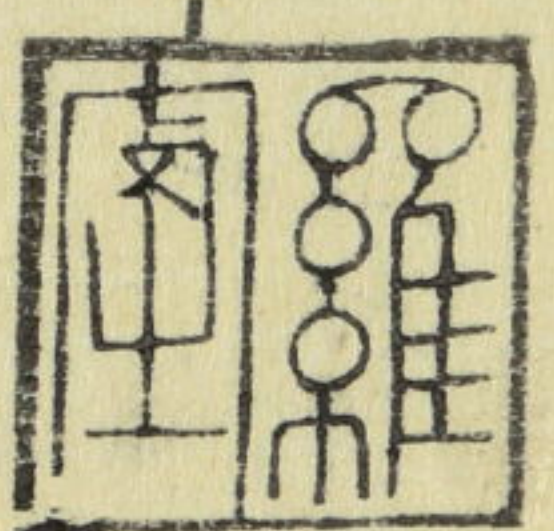
松齋
百甲



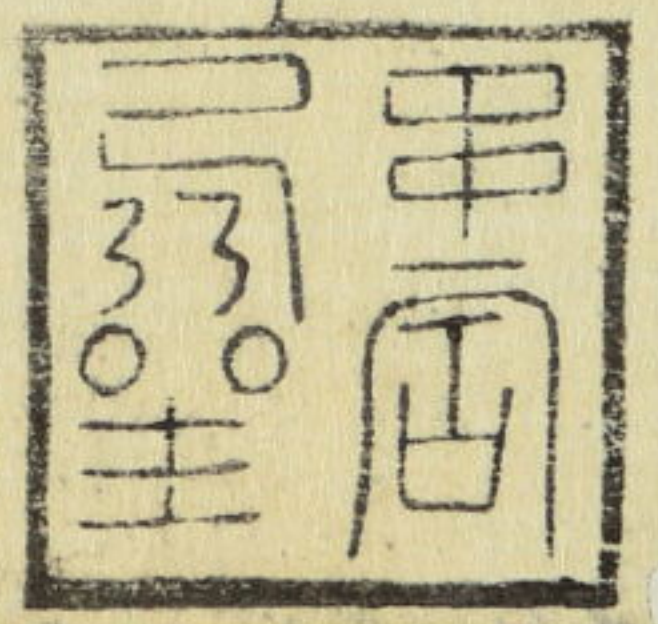
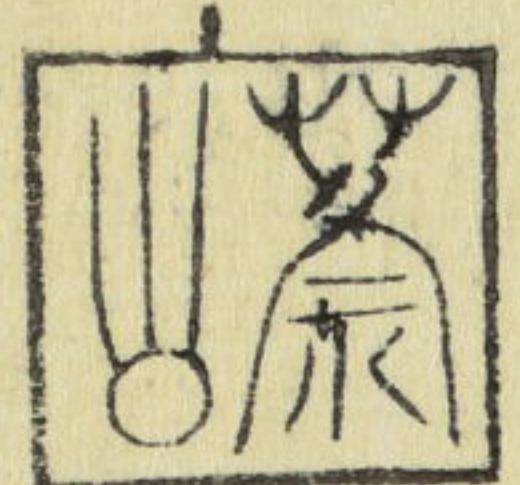
松齋
鼻



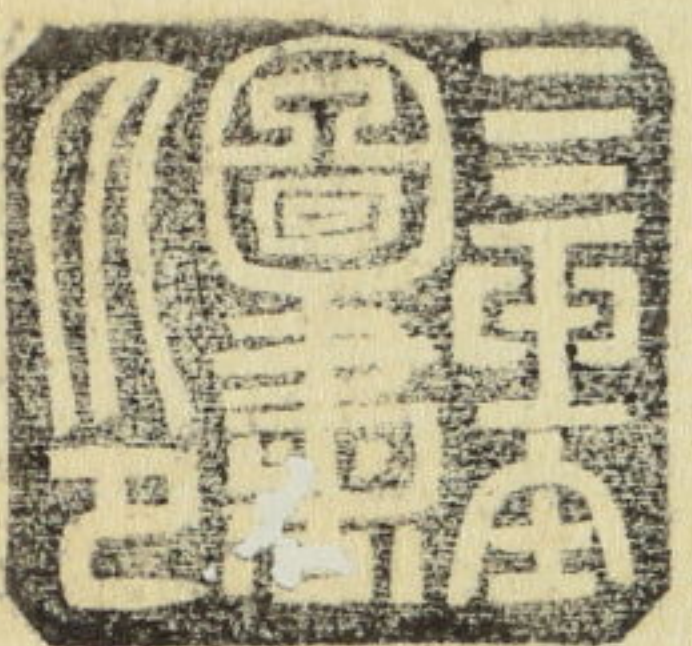
伽羅密
百里二



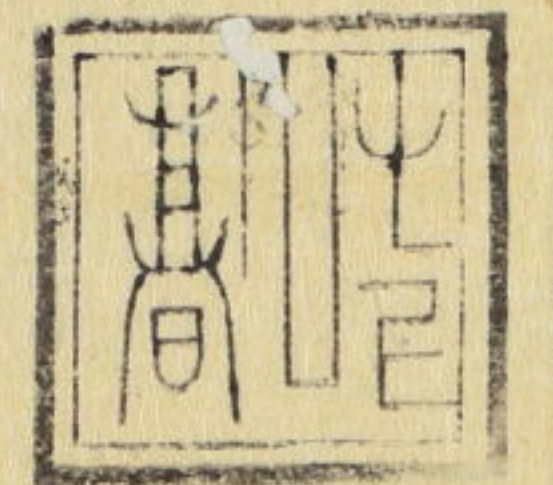
象山
百里三



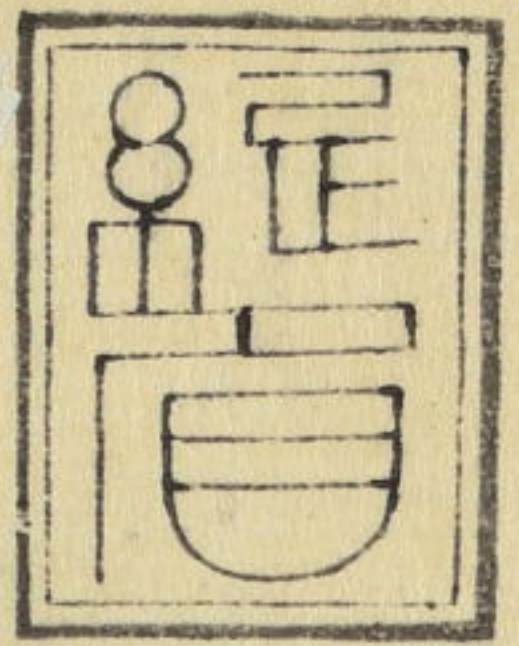
王公堂
百里四



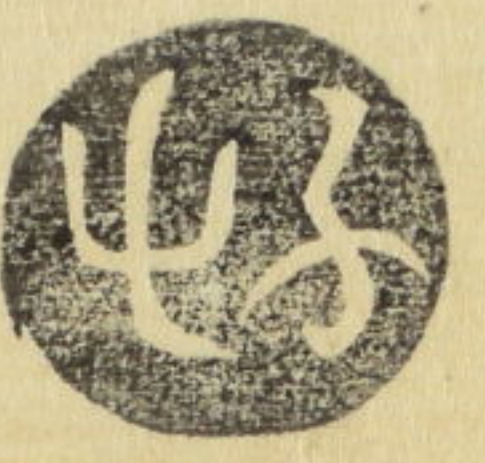
老歎
百里五



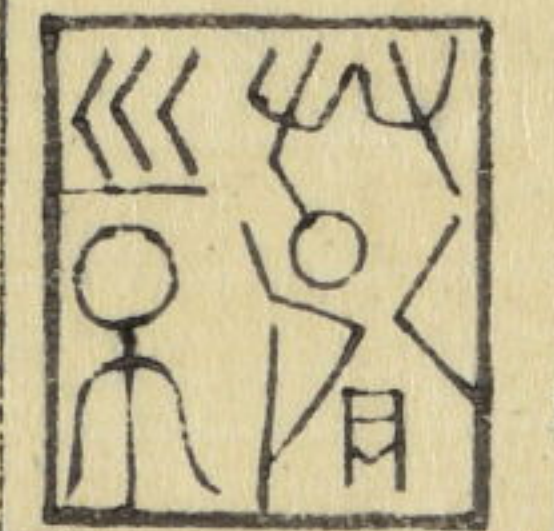
紅眉
百里六



汝一子
百里七



噫子
百里八



阿加
百里九



李聞
百里十



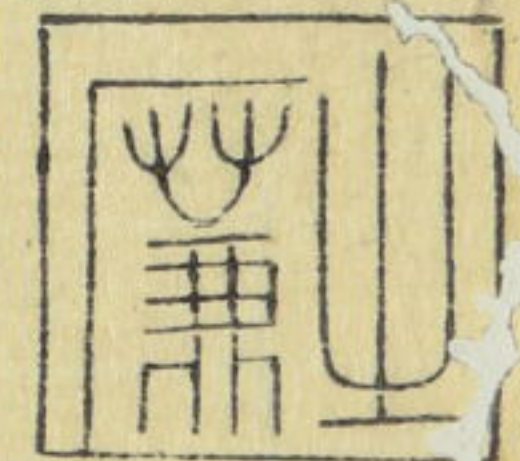
善悅
百里十一



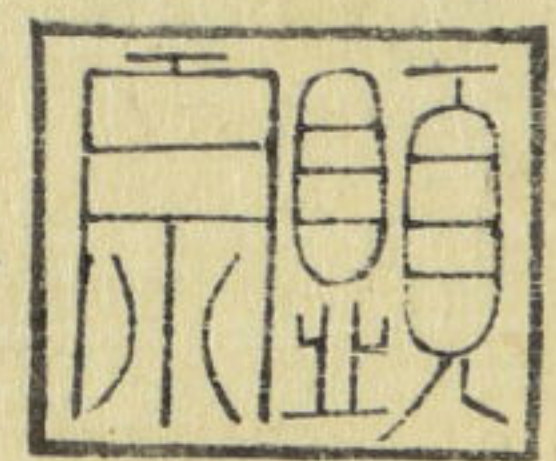
李聞
百里十

善悅
百里十一

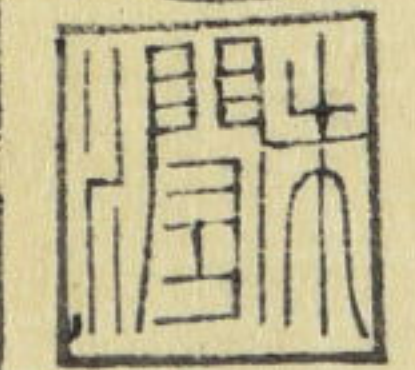
士廬
百五十一



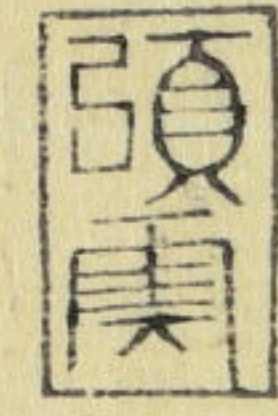
影宗皇帝
百五十二



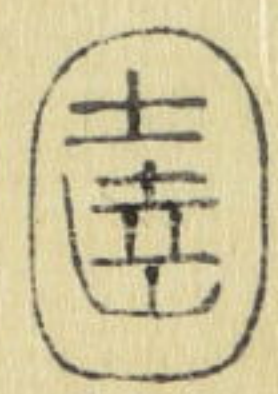
朱濂洞淳民
百五十四



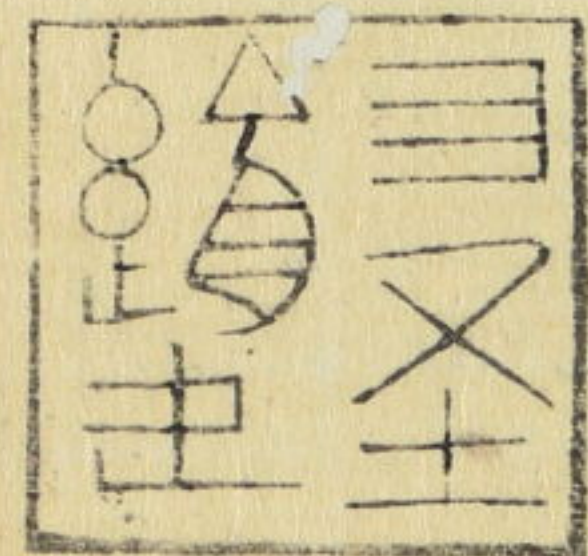
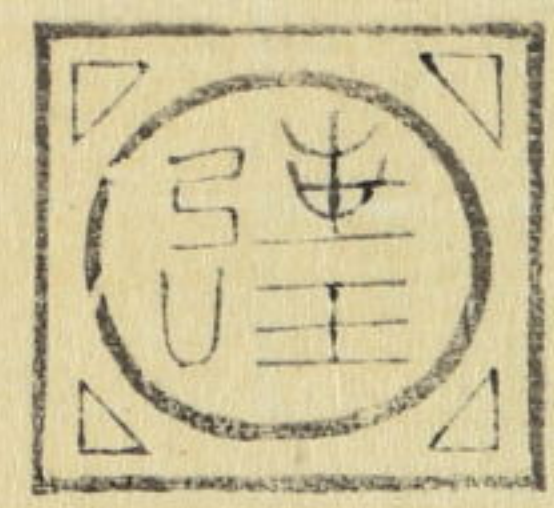
頌雲
百五十五



大達
百五十六

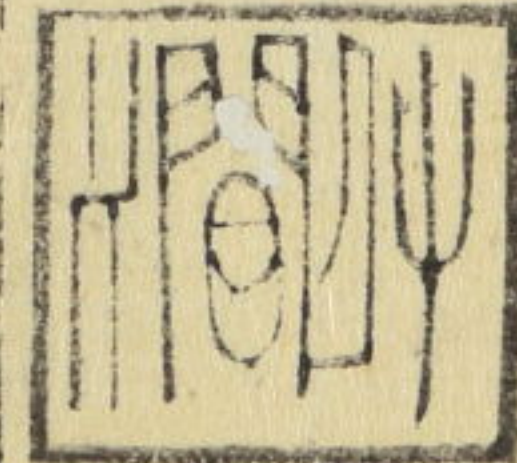


陰王三郎
百五十七



陸仲洞
百五十八

陸

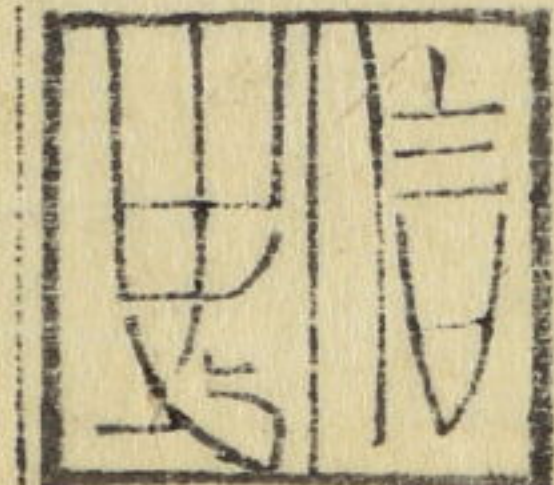


百五十九



陸佐忠
百六十

陸



揚林
百六十一



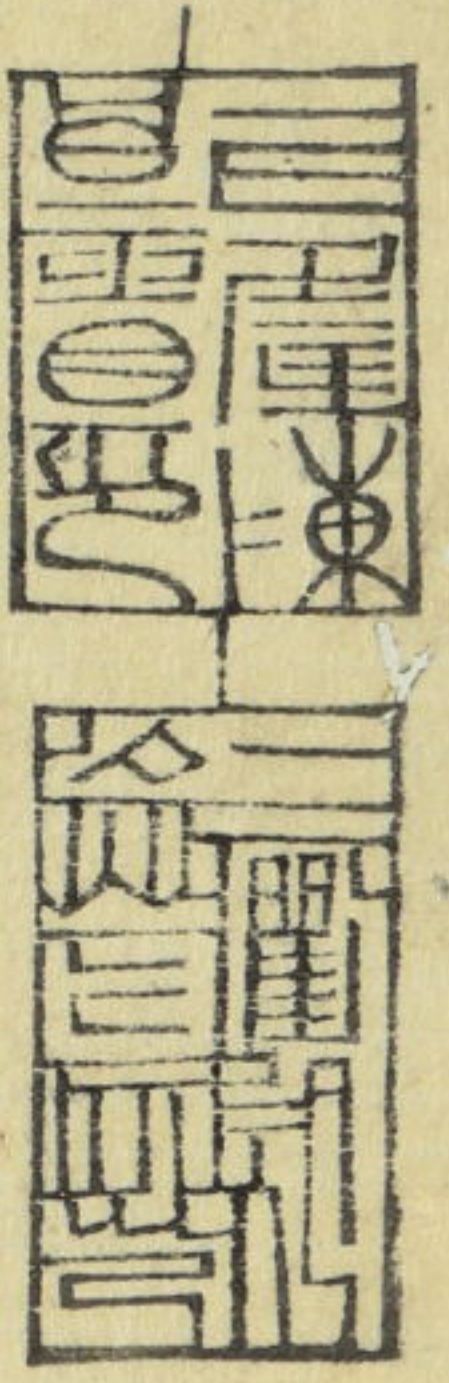
產白
百六十二



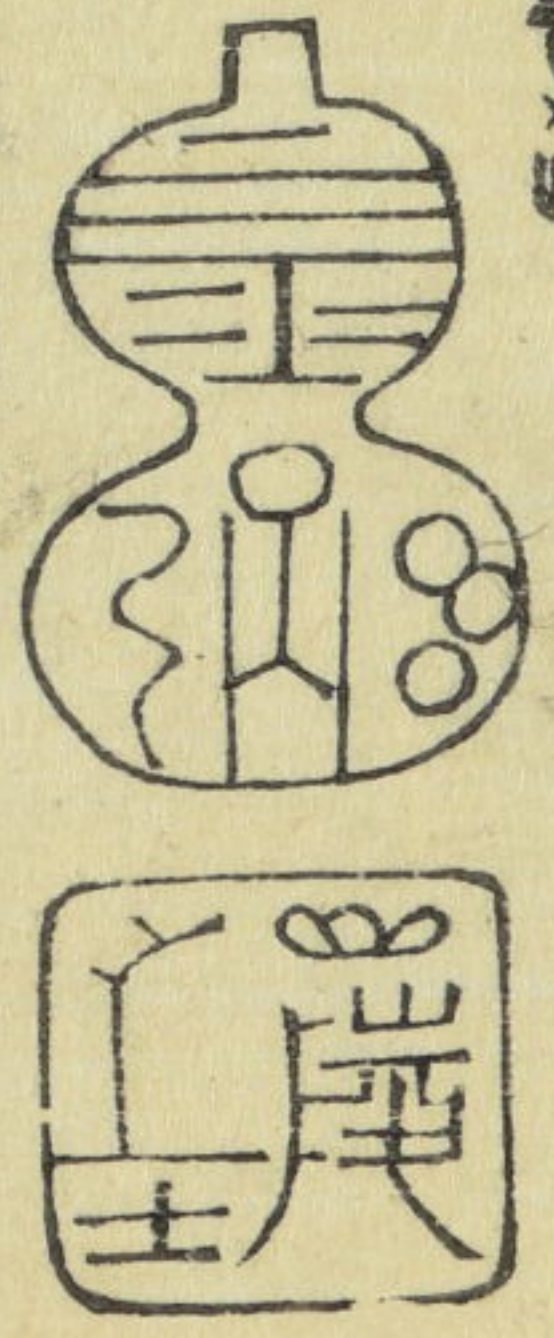
唐繪事

卷之三

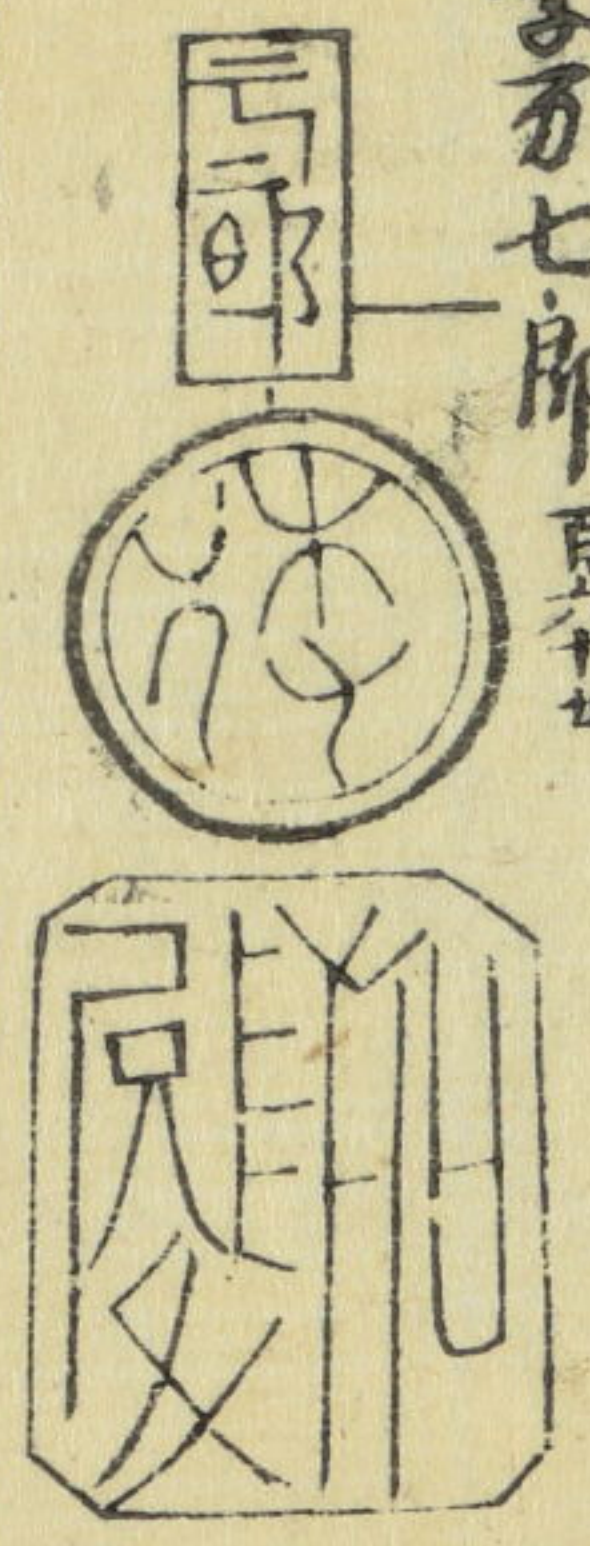
雲川 百六十二



鹿島漫 百六十四



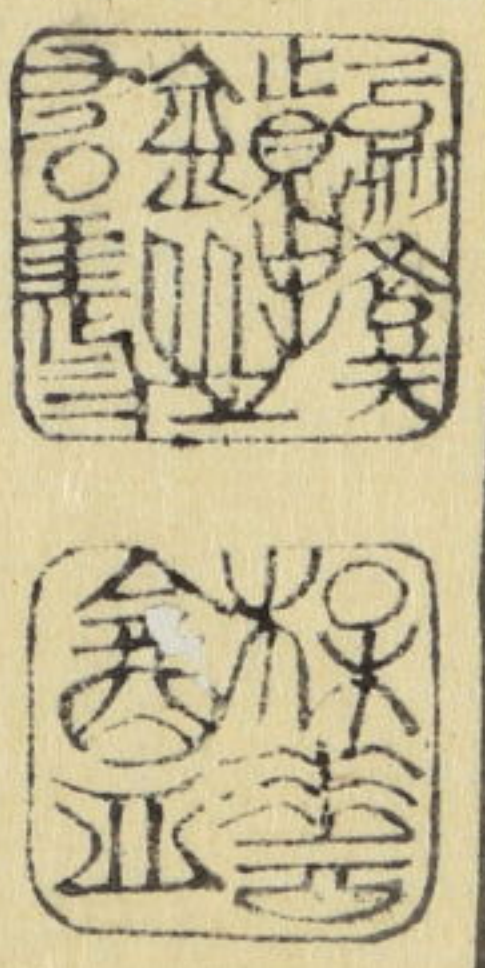
李方七郎 百六十九



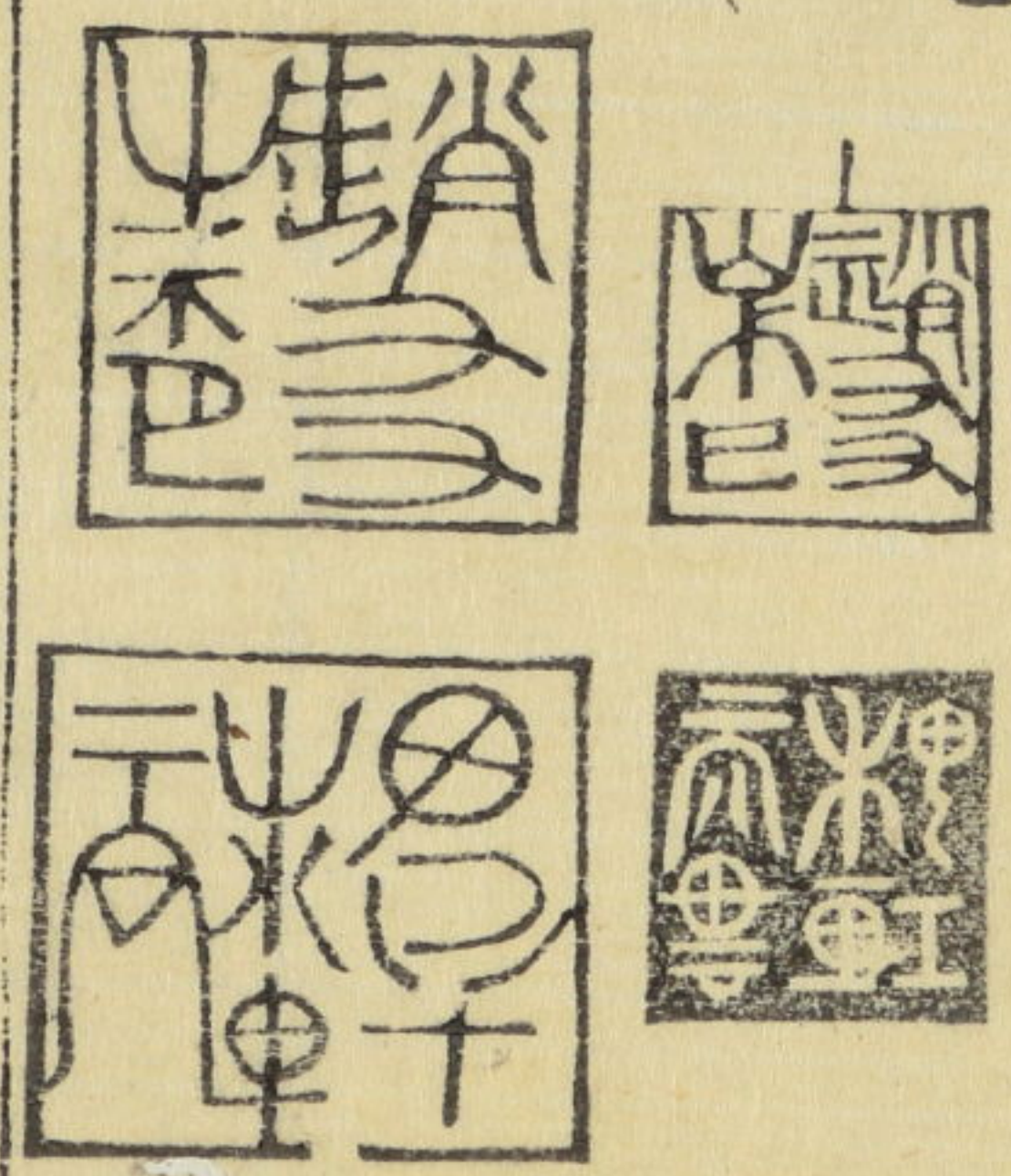
張子政 百六十六



梅道人 百六十七



趙友 百六十八



香法齋 百六十九



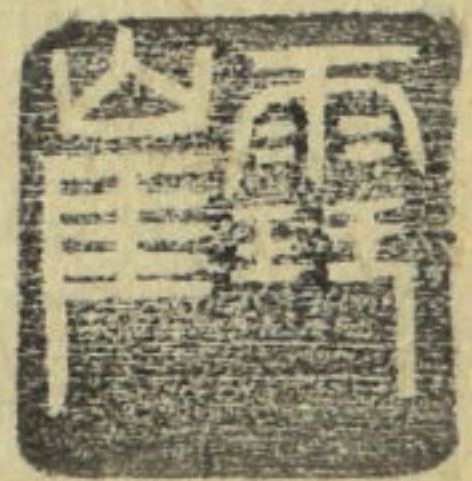
李福賢



百六十一

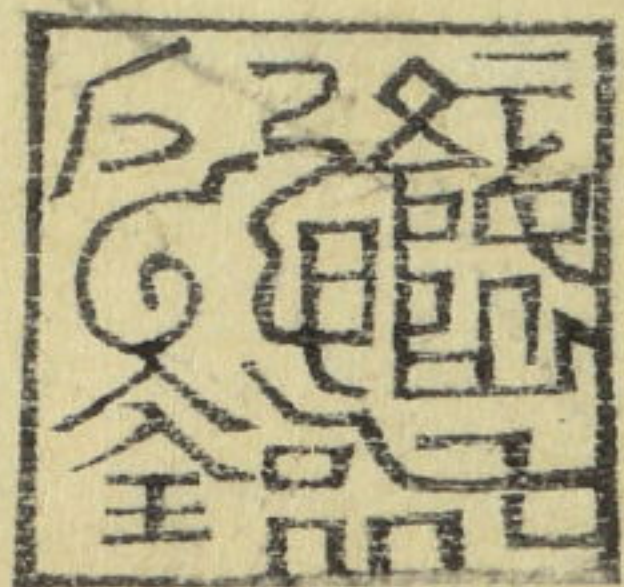
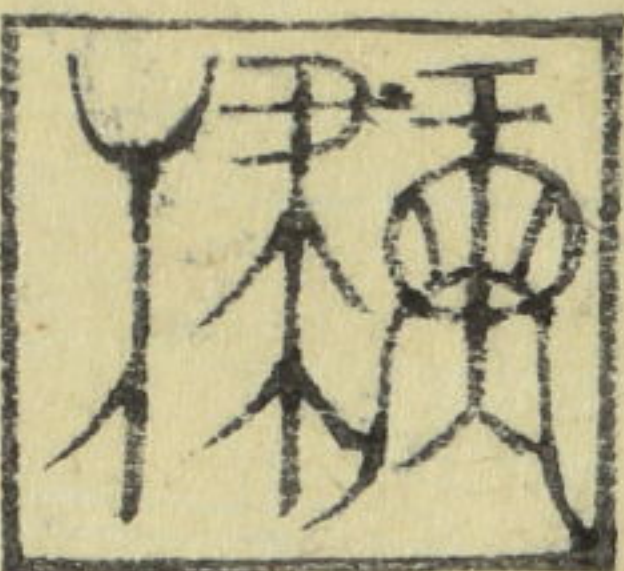
後施

卷之三



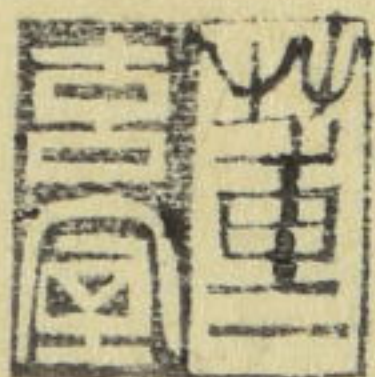
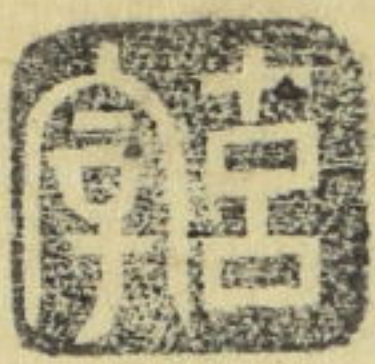
子楚 百七十三

周道 百七十四

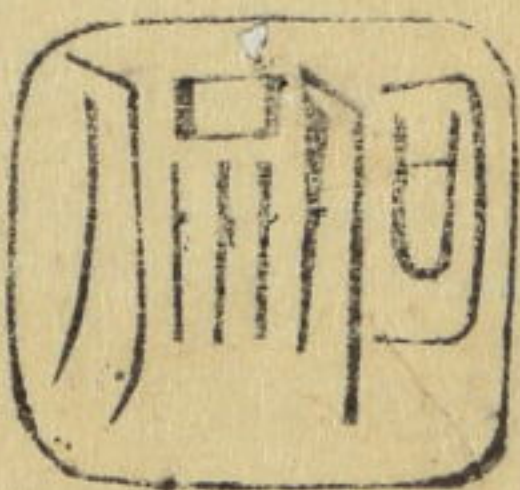
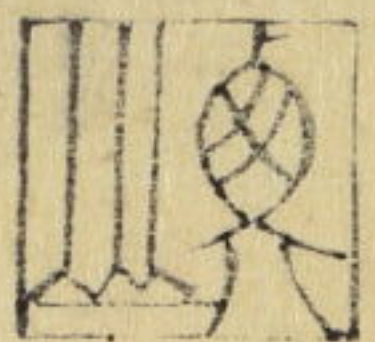
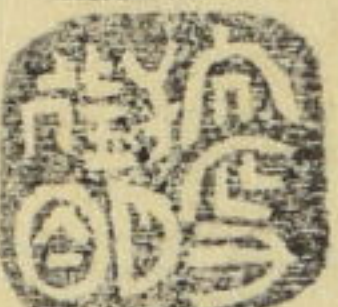


王侯 百七十五

呂紀 百七十六

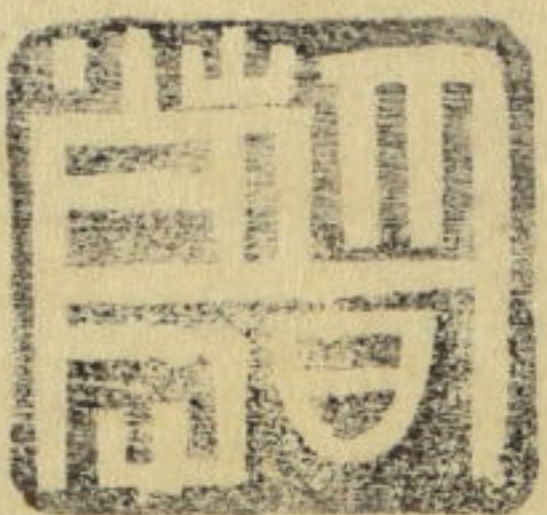
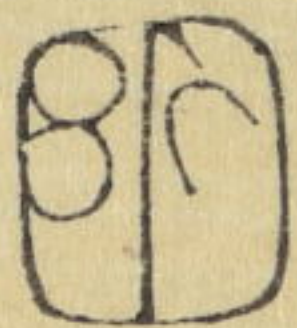


文徽 百七十七



鄧城 百七十八

百七十八



古法眼乃蓋寫之麻初及之書
寫之還也りを書今小得野亦
之と云

庚辰傳中終



